Pioneer

プラズマディスプレイシステム

PDP-502HD

操作マニュアル

もくじは
6 ページ

安全上のご注意

ご使用の前に、別冊設置マニュアルの「安全上のご注意」もよくお読みのうえ正しくお使いください。

安全に正しくお使いいただくために

図記号について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな図記号を使用しています。その記号と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。

図記号の意味

△記号は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、やってはいけない（禁止）内容です。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、必ず行っていただく（強制）内容です。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常な状態で使用すると火災・感電の原因となります。
すぐに機器本体の主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

万一、内部に水や異物等が入った場合は、すぐに機器本体の主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理をご依頼ください。

万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は機器本体の主電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

オーディオ機器やビデオ機器など、他の機器と組み合わせて使用する場合は、電源を「切」にしてから接続してください。

地震などによる転倒を防止するため、丈夫なヒモとフック金具を使用して、壁や柱など強度の高いところにディスプレイを固定してください。

本機の構成

本機はディスプレイ、メディアレシーバー、リモコン、スピーカーおよびシステムケーブルとスピーカーケーブルで構成されています。

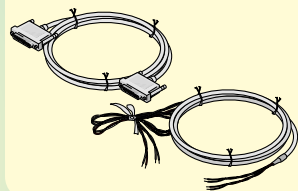
スピーカー

薄型で小さなユニットながら迫力のある音が楽しめます。
ホームシアターに発展させるときには、センタースピーカーとしてお使いください。
購入時には別冊 11 ページにしたがって取りつけてください。

ディスプレイ

明るくフラットで薄い画面
(奥行 98mm)
大きな画面
（16:9の50型ワイド画面）
高精細な画面
(1280 × 768 画素)

ケーブル

ディスプレイとメディアレシーバーをつなぐシステムケーブルとスピーカーケーブルの２つがあります。
ケーブルの長さは約 3m です。

リモコン

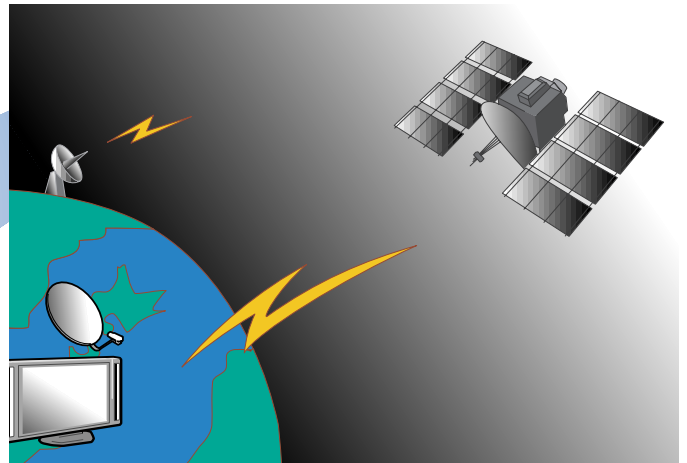
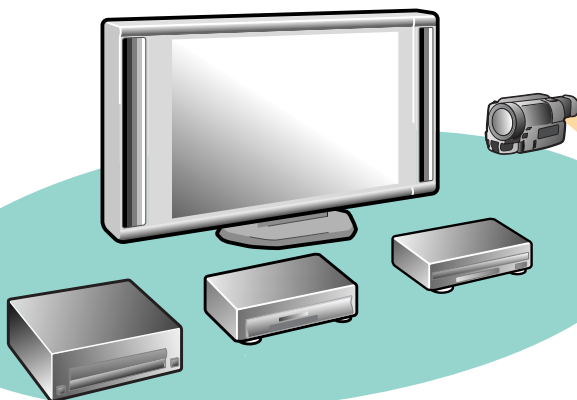
本機は豊富な機能を持ち、いろいろな楽しみかたができます。
ごく基本的な操作はメディアレシーバーでもできますが、ほとんどの機能はリモコンで操作します。

メディアレシーバー

MUSE デコーダ内蔵で BS ハイビジョン放送をそのまま楽しめます。
ベースバンド方式 M-N コンバーターを内蔵していますので、ふつうのビデオデッキでハイビジョン放送を録画できます。（ただし、画質は現行放送（NTSC）の品位）
また、ホームシアターに発展が可能な入出力端子や、デジタル BS 放送に対応した入力端子を持っています。

こんなことができます

いろいろなテレビ放送を楽しむことができます

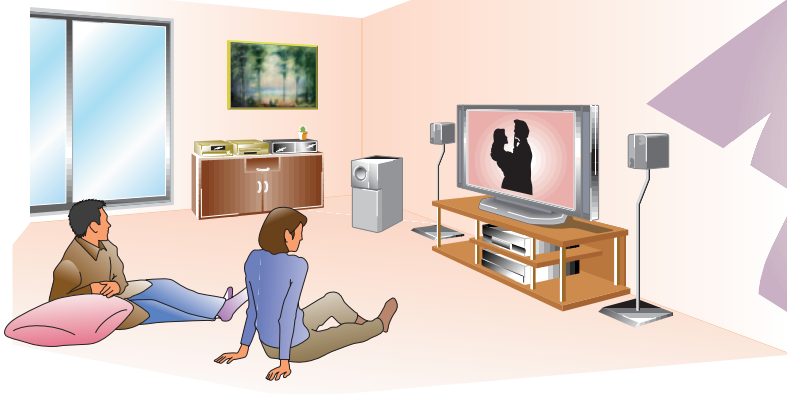
- 一般の VHF/UHF テレビ放送
- BS 放送
- BS ハイビジョン放送
- CATV 放送(ケーブルテレビ)

いろいろなソース機器をつなぐことができます

- DVD プレーヤー
- DVD LD プレーヤー
- ビデオデッキ
- CLD プレーヤー
- ハイビジョン LD プレーヤー
- ハイビジョン用ビデオデッキ
- デジタル CS チューナー
- ビデオカメラ

本機で各放送を見るために用意する機器

放　送	用意する機器
VHF/UHF 放送	VHF/UHF アンテナ
BS 放送	BS アンテナ
BS 有料放送（WOWOW など）	BS アンテナ＋ BS デコーダ
BS ハイビジョン放送	BS アンテナ
CATV 有料放送	CATV 放送会社の 設置工事＋ホームターミナル
デジタル CS 放送	CS アンテナ＋デジタル CS チューナー（デコーダ）
デジタル BS 放送	BS アンテナ＋デジタル BS 放送対応チューナー
デジタル地上波放送	デジタル放送対応アンテナ＋デジタル放送対応チューナー

1999 年 6 月現在

※ アンテナまたはCATVはマンションなどの共同設備を利用できる場合があります。
※ CATVの受信はサービスの行われている地域のみ可能です。
※ 1999 年 6 月現在、BS と地上波のデジタル放送は行われておりません。

あなたのお部屋を臨場感豊かなホームシアターに発展させることができます

別売の AV アンプやスピーカーと組み合わせます

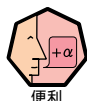
もくじ

テレビ 放送を見る

DVD や LD、ビデオなどを見る

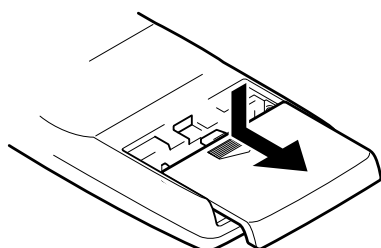
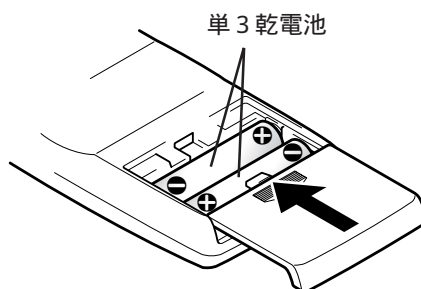
はじめに

本書の見かたについて

- 本書は主に使い方を中心にして内容をまとめています。設置や接続については、別冊の「設置マニュアル」をご覧ください。
- 本機は機能が大変豊富です。
  もくじはやりたいことがひと目で分かるようになっています。
- 本書の内容を理解しやすくするために、補足的な情報を３つに分けて説明しています。

便利に使いこなしていただくための情報です。

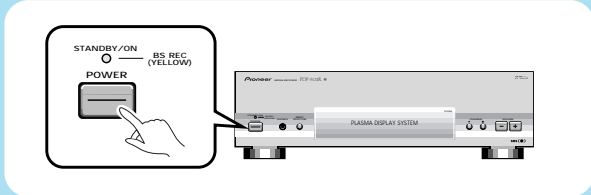
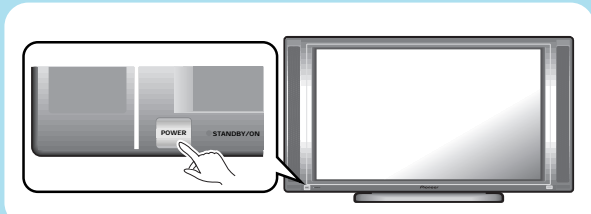
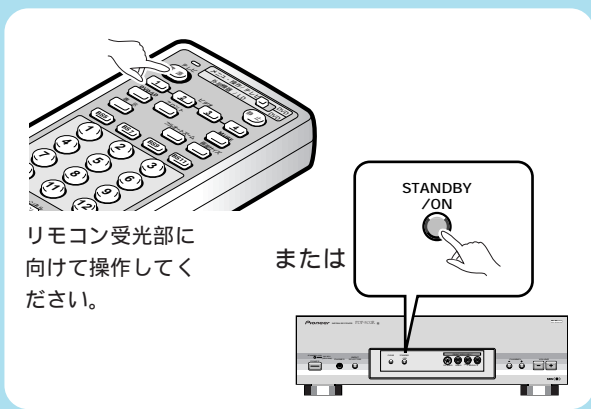
正しく安心してお使いいただくための情報です。

機能や操作方法について紹介しています。
もっと知りたいときにお読みください。

リモコンに電池を入れる

- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）の向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間（一ヵ月以上）使用しないときは、電池の液漏れを防ぐためにリモコンから電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。
- 付属の電池を充電、ショート、分解したり火中に投入したりしないでください。

リモコンの取り扱いについて

- リモコンは落としたり濡らしたりしないでください。
- 直射日光または暖房の放射熱の当たるところ、湿気の多いところでは使用しないでください。

リモコンの電池交換について

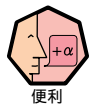
- 使えなくなった電池はすぐ取り出して交換してください。

主電源について

必ずお読みください

本書では、操作の説明を電源がスタンバイの状態から説明しています。
電源をスタンバイ状態にするまでの操作手順を以下に説明しますので、必ずお読みください。

入れ方の手順	インジケータの色	
	メディアレシーバー	ディスプレイ
1. メディアレシーバーの 主電源を入れる STANDBY / ON　BS REC (YELLOW)　POWER　PLASMA DISPLAY SYSTEM	黄（点滅）	—
2. ディスプレイの主電源を入れる POWER　STANDBY / ON	黄（点滅）→ 緑 **これで主電源が入りました**	緑
3. リモコン、またはメディアレシーバーの電源ボタンを押す リモコン受光部に向けて操作してください。 または STANDBY / ON	緑 → 赤 **スタンバイ状態になりました**	緑 → 赤

主電源を切るとき

主電源を切るときは、メディアレシーバーとディスプレイの両方の主電源を切ってください。
長い間使わないときは主電源を切るようにしてください。

本機は数分間以上画像信号を検知しない場合、自動的にスタンバイ状態にすることができます（オートパワーオフ機能　54ページ参照）。

メディアレシーバー、またはディスプレイのどちらか片方だけの主電源しか入っていない場合、インジケータは黄色に点滅します。
必ず両方の主電源を入れてください。

リモコン　基本キー（10ページ）・応用キー（11ページ）

電源ボタン　9ページ
電源の入／切（スタンバイ）をします。

画面静止ボタン
17、19ページ

[*1, 2] 入力切換ボタン
入力の切り換えに使います。

画面サイズボタン
51ページ

表示ボタン
17、19ページ
現在の設定を見るときに使います。

フルオートズームボタン
50ページ

BSチャンネルボタン
18ページ
BS（衛星）放送のチャンネルを選ぶときに使います。

テレビチャンネルボタン
16ページ
テレビのチャンネルを選ぶときに使います。

チャンネルリターンボタン
17、19ページ
１つ前に選んでいたチャンネルに戻るときに使います。

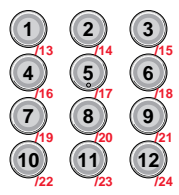
チャンネルボタン
16、18、22ページ
＋、－ボタンでテレビのチャンネルが選べます。

音量ボタン
16、18、62ページ
＋、－ボタンで音量が調整できます。

消音ボタン
17、19ページ
音を消したいときに使います。

リモコンのカバーを開けた状態で示しています。

[*1] MUSEサブ入力をビデオ２に設定しているときはビデオ２には切り換わりません。
[*2] ハイビジョン放送が放送されているBSチャンネルでBS録画設定「オン」にすると、MUSEには切り換わりません。

13～24に設定したチャンネルを見るには
リモコンのチャンネル番号を２回続けて押します。
例）１チャンネルを２回続けて押すと13チャンネルが表示されます。

メニュー操作 / テレビ DVD
外部機器 / LD DVD

メニュー操作／外部機器切換スイッチ　26 ページ

本機とリモコンを使って、パイオニア製のLDプレーヤーとDVDプレーヤーを操作することができます。
本機を操作するときはスイッチを左側にしてお使いください。

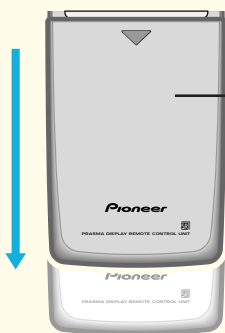
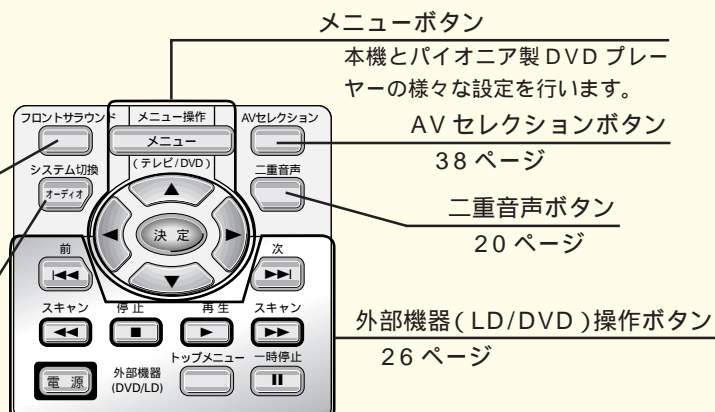
▼マークの部分を軽く押しながらカバーを下にスライドさせてください

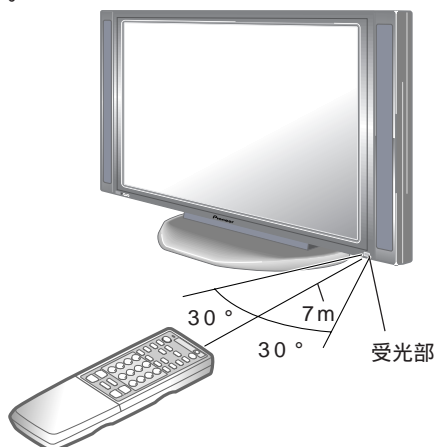
メニューボタン
本機とパイオニア製 DVD プレーヤーの様々な設定を行います。

AV セレクションボタン
38 ページ

二重音声ボタン
20 ページ

外部機器（LD/DVD）操作ボタン
26 ページ

フロントサラウンドボタン
37 ページ

オーディオシステム切換ボタン
61 ページ

リモコンで動作しにくいとき

リモコンと本機の間に障害物があると、動作しないことがあります。
また、電池が消耗した場合は、動作できる距離が徐々に短くなりますので、早めに新しい電池に交換してください。

本機のディスプレイ（プラズマディスプレイ）は、画面から微弱な赤外線を放出しています。ディスプレイの近くにビデオ等の赤外線リモコンによって操作する機器を設置すると、その機器がリモコンを受け付けにくくなったり、受けなくなる場合があります。
そのような場合はディスプレイから離して設置してください。

設置環境によっては、ディスプレイから放出される赤外線の影響によって本機のリモコンが受け付けにくくなったり、リモコンが動作できる距離が短くなることがあります。

画面から放出される赤外線の強さは、表示される絵がらによって変わります。

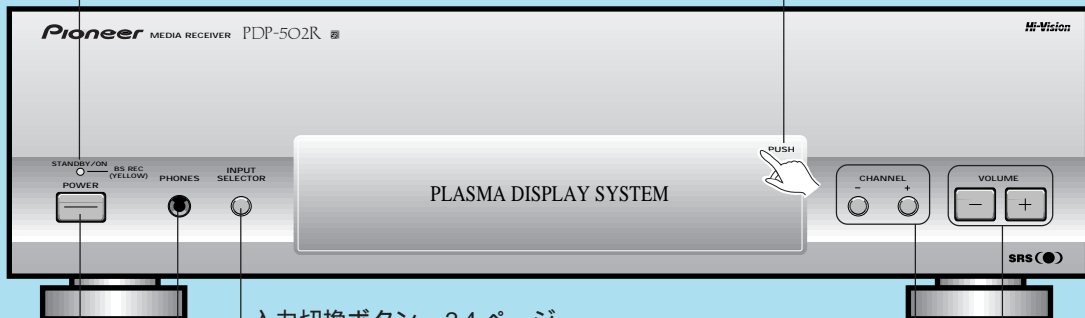
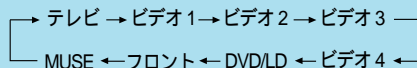
メディアレシーバー

フロントパネル

スタンバイインジケータ　9 ページ
スタンバイ状態では赤、本機が動作状態にあるときは緑色に、そして留守録画状態にあるときは黄色に点灯します。

ドアの開閉のしかた
ドアの右上の隅を押すと開き、押しながら閉じるとロックします。

入力切換ボタン　24 ページ
押すたびに次の順番で入力が切り換わります。* 注

テレビ → ビデオ 1 → ビデオ 2 → ビデオ 3 → ビデオ 4 → DVD/LD → フロント → MUSE

チャンネルボタン
＋、－ボタンでテレビのチャンネルを選べます。

ヘッドホン端子
（ヘッドホンを使うと、スピーカーから音は出ません）

音量ボタン
＋、－ボタンで音量を調整できます。

メディアレシーバー主電源ボタン　9 ページ
メディアレシーバーの主電源の入／切をします。

ドア内部

フロント・ビデオ入力端子
ビデオカメラやゲームなどをつなぎます。

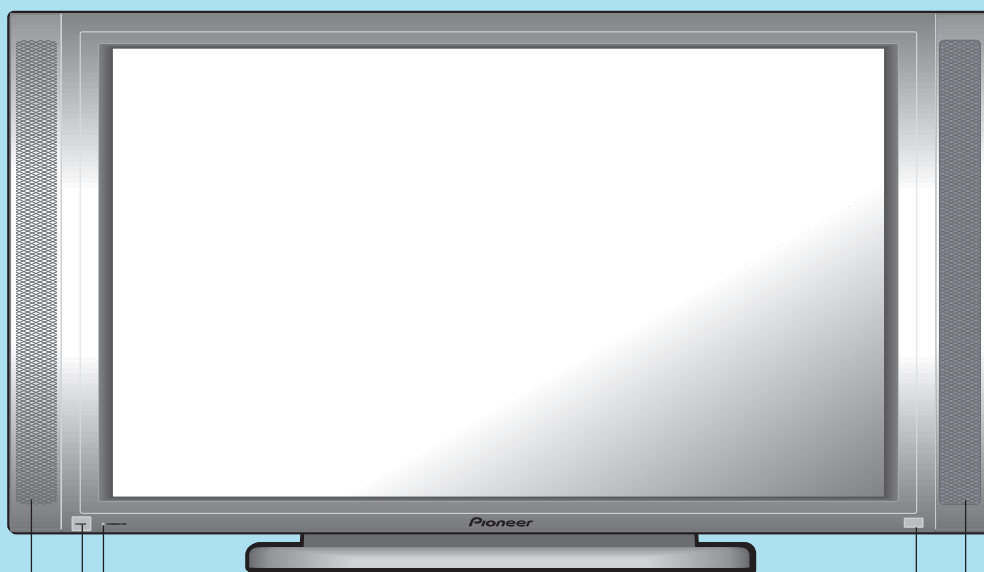
STANDBY/ON ボタン　9 ページ
電源の入／切（スタンバイをします。）

CLEAR ボタン　58 ページ
電源が入っている状態のときに4秒以上押し続けると、本機の機能が初期状態に戻ります。

ご注意

＊注　入力切換ボタンについて

- MUSE サブ入力をビデオ 2 に設定しているときは、ビデオ 2 はスキップされます。
  別冊 31 ページをご覧ください。
- ハイビジョン放送で B S 録画設定「オン」にしたとき MUSE はスキップされます。

ディスプレイ

スタンバイインジケータ　9 ページ

スタンバイ状態では赤、本機が動作状態にあるときは緑色に、そして留守録画状態では黄色に点灯します。

リモコン受光部　11 ページ

リモコンは、操作するためにリモコン受光部に正しく向けてください。

スピーカー

購入されたら取り付けてください。
（取り付け方　別冊 11 ページ）

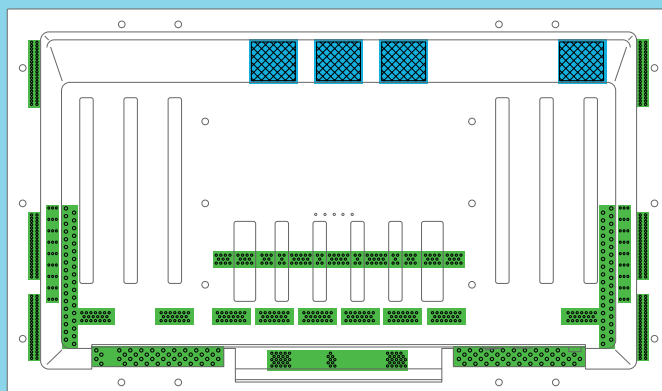
ディスプレイ主電源ボタン　9 ページ

ディスプレイの主電源の入／切をします。
（主電源ボタンは入るまで確実に押してください。）

日常のお手入れ

お手入れの前に必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

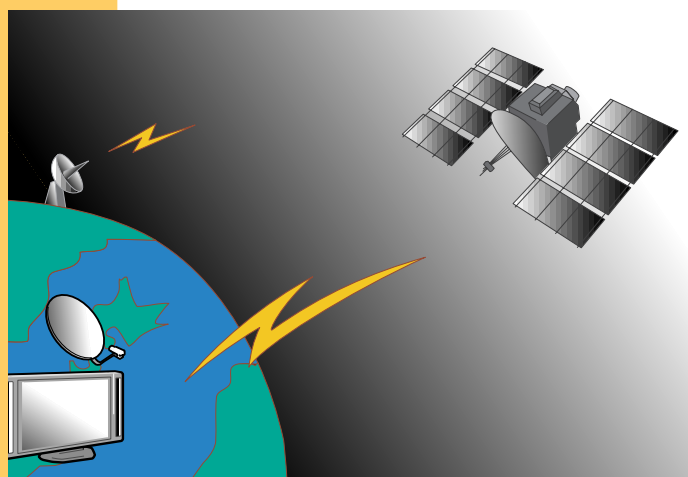
通気孔のお手入れ

ディスプレイ背面にある通気孔は、1ヵ月に1回を目安に掃除機でホコリを吸い取ってください（このとき掃除機は「弱」に設定してください）。また、通気孔のお手入れは必ず本機の主電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
ホコリをためたまま使用するとファンの音が大きくなります。そのままにしておくと内部の温度が上昇し、故障や火災の原因となります。

画面（ディスプレイ前面保護パネル）のお手入れ

ほこりを払い落とした後、付属の布（ワイピングクロス）、または柔らかい布で軽くふき取ってください。ティッシュや硬いものでふかないでください。
表面は傷つきやすいので硬いものでこすったり、たたいたりしないでください。

ディスプレイ／メディアレシーバー／リモコンのお手入れ

ベンジン、シンナーなどの溶剤は絶対に使用しないでください。ディスプレイやメディアレシーバー、およびリモコンが変質したり塗料がはげたりすることがあります。
柔らかい布で軽くふき取ってください。
汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤に柔らかい布を浸し、よく絞ってふき取り、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

ふだんの使い方

テレビ放送を見る

ここではふつうのVHF放送、UHF放送を見るための操作について説明します。

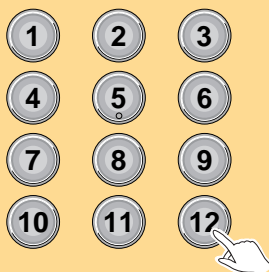
■　**操作の前にかならず次の接続と準備ができていることを確認してください。**

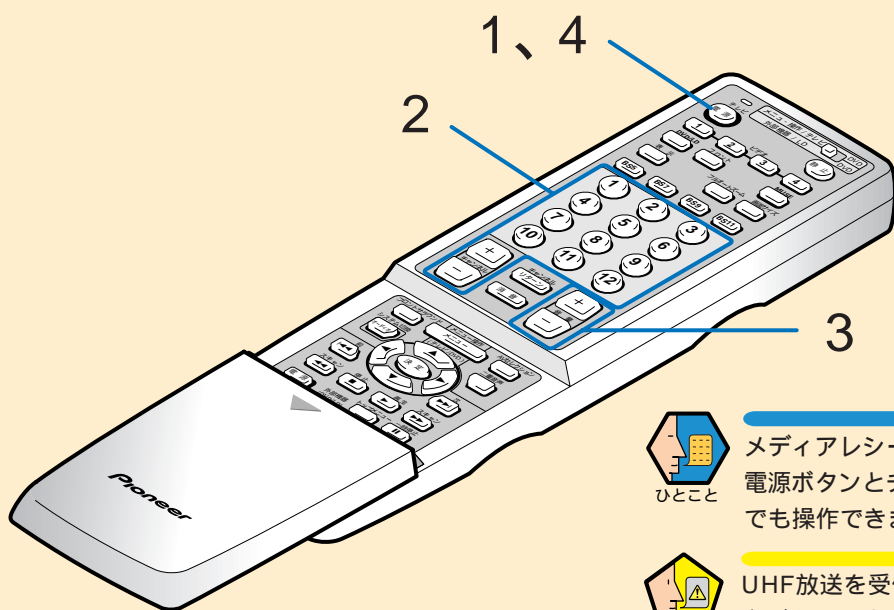
①　VHF/UHFアンテナをつなぐ。（別冊18ページ）

②　本機の主電源が入り、スタンバイ状態になっている。（9ページ）

1 電源を入れる

2 チャンネルを選ぶ

テレビチャンネルボタンで選ぶ
例）12チャンネル

チャンネルボタンでも選ぶことができます。

3 音量を調整する

ひとこと

メディアレシーバーのフロントパネルにある電源ボタンとチャンネルボタンと音量ボタンでも操作できます。

ご注意

UHF放送を受信する場合は、チャンネルの設定が必要です。42〜47ページをご覧ください。

4 テレビを消すには リモコンの「電源」を押す

音を消したいとき（音声ミュート）
リモコンの「消音」ボタンを押します。

消 音

もう 1 度押すと音がでます。
消音ボタンを押して８分経つと消音状態は自動的に解除されます。このとき、音量を最小の状態にして解除しますので突然音が出ることはありません。

見ているチャンネルの番号を知りたいとき
リモコンの「表示」ボタンを押します。

見ているチャンネルの番号や設定の状態が、約３秒表示されます。

１つ前に見ていたチャンネルに戻りたいとき
リモコンの「チャンネルリターン」ボタンを押します。

もう 1 度押すと、もとのチャンネルに戻ります。

画面を静止させるには
リモコンの「静止」ボタンを押します。

見ているチャンネルの映像が静止します。
料理番組や懸賞番組などを見ているときに使うと便利です。
もう１度押すと、ふつうの状態に戻ります。
なお、静止ボタンを押して約３分経つと静止状態は自動的に解除されます。

映像だけを消したいとき（映像ミュート）
33 ページをご覧ください。
受信番組に合わせて画面サイズを切り換えることができます。
51 ページをご覧ください。

CATV（ケーブルテレビ）を見るには
CATV を見るには、使用する機器ごとにCATV 会社との受信契約が必要です。
さらに、スクランブルのかかった有料放送の視聴・録画には、ホームターミナル（アダプター）が必要になります。

13 ～ 24 に設定したチャンネルを見るには
リモコンのチャンネル番号を 2 回続けて押します。
1 チャンネルを 2 回続けて押すと 13 チャンネルが表示されます。

BS 放送を見る

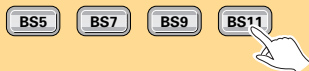
ここでは BS 放送を見るための操作について説明します。
本機は BS チューナー及び MUSE デコーダを内蔵しています。

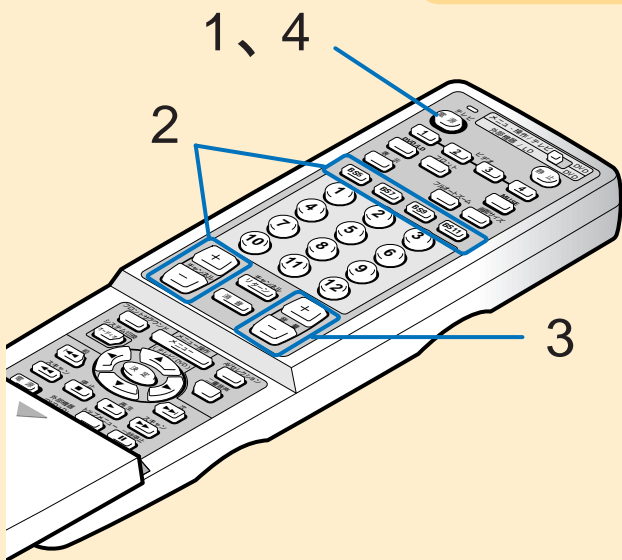
■　**操作の前にかならず次の接続と準備ができていることを確認してください。**

①　BS アンテナをつなぎ、アンテナの設定をする。（別冊 19 ～ 21 ページ）
②　BS の有料放送（WOWOW/ セント・ギガなど）を見る場合は、スクランブルされている映像情報を元に戻すための専用のデコーダを本機に接続し、デコーダの設定をする。（別冊 22 ～ 24 ページ）
③　本機の主電源が入り、スタンバイ状態になっている。（9 ページ）

1 電源を入れる

2 チャンネルを選ぶ

BS チャンネルボタンで選ぶ
（例）BS11 チャンネル

チャンネルボタンでも選ぶことができます。

3 音量を調整する

BS 録画設定を「オン」にした場合は、設定した BS チャンネル以外は選べません。

メディアレシーバーのフロントパネルにあるチャンネルボタンと音量ボタンでも操作できます。

1999 年 6 月現在、BS ハイビジョン放送は BS9 チャンネルで放送されています。

4 テレビを消すには リモコンの「電源」を 押す

音を消したいとき（音声ミュート）
リモコンの「消音」ボタンを押します。

消 音

もう 1 度押すと音がでます。
消音ボタンを押して 8 分経つと消音状態は自動的に解除されます。このとき、音量を最小の状態にして解除しますので突然音が出ることはありません。

見ているチャンネルの番号を知りたいとき
リモコンの「表示」ボタンを押します。

見ているチャンネルの番号や設定の状態が、約 3 秒表示されます。

1 つ前に見ていたチャンネルに戻りたいとき
リモコンの「チャンネルリターン」ボタンを押します。

もう 1 度押すと、もとのチャンネルに戻ります。

画面を静止させるには
リモコンの「静止」ボタンを押します。

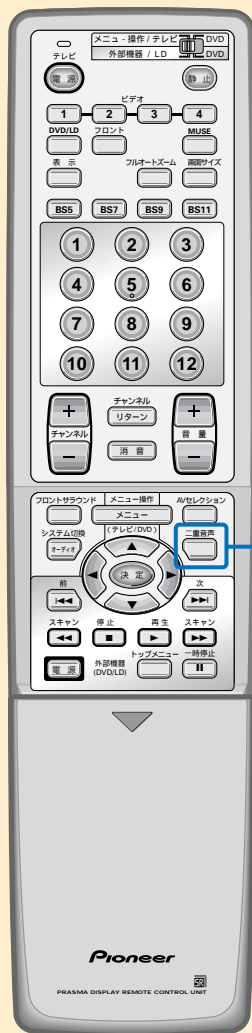
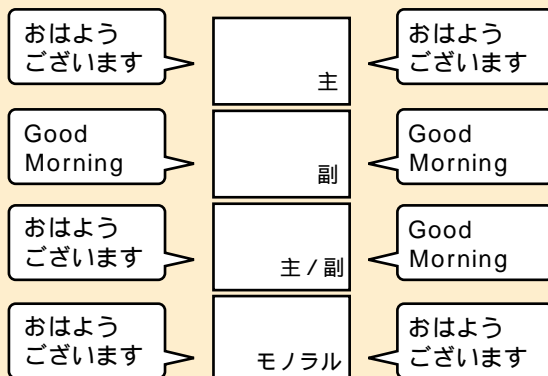
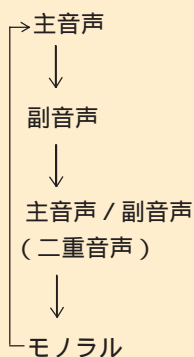
見ているチャンネルの映像が静止します。
料理番組や懸賞番組などを見ているときに使うと便利です。
もう 1 度押すと、ふつうの状態に戻ります。
なお、静止ボタンを押して約 3 分経つと静止状態は自動的に解除されます。

映像だけを消したいとき（映像ミュート）
33 ページをご覧ください。
受信番組に合わせて画面サイズを切り換えることができます。
51 ページをご覧ください。

BS 独立音声放送（セント・ギガ）を聞くには
35 ページをご覧ください。

ハイビジョン放送受信時には、自動的に画面サイズが「フル」になります。
53 ページをご覧ください。

主音声と副音声を切り換える

二重音声（二か国語）のとき、主音声と副音声を切り換えることができます。

ひとこと

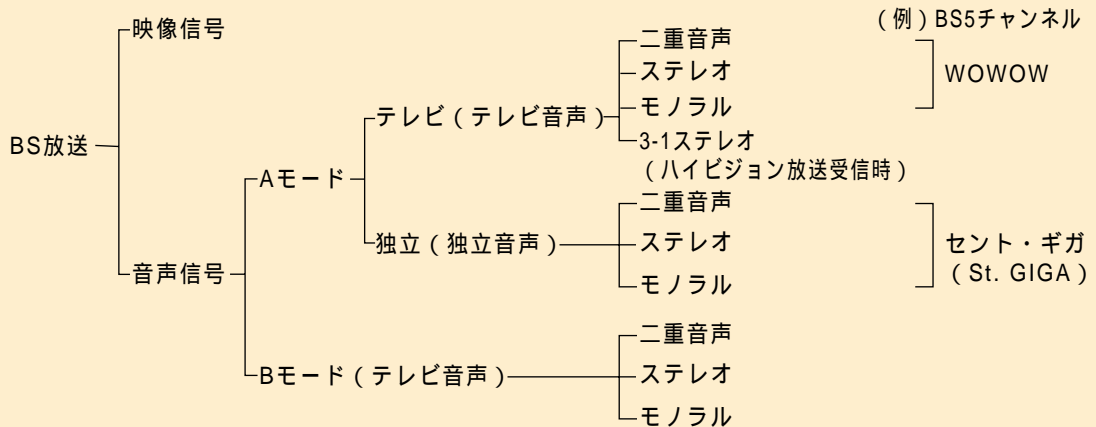
ステレオ放送で雑音が多いとき

ステレオ放送で雑音が多いとき、二重音声ボタンでモノラルを選ぶと、モノラル音声になり聞きやすくなります。

ステレオ放送のときにモノラル以外の音声モードを選ぶと、自動的に音声がステレオに切り換わります。

BS デコーダで WOWOW などを見ているときは、BS デコーダで二重音声を切り換えてください。

BS 放送の音声について

- BS 放送には、A モード放送と B モード放送があります。
  A モード放送とは、4 つの音声チャンネルのうち、2 つ（L、R）はテレビ音声、残りの 2 つ（L、R）は独立音声として送る方式です。
- B モード放送では、A モード放送のときより音声信号の帯域幅が広いため、CD と同等の音を得ることができます。

■Aモードの音質はFMと同等
■Bモードの音質はCDと同等

3-1ステレオ（4chステレオ（3-1方式））について

ハイビジョン放送（MUSE方式）の音声の一つに、4chステレオ（3-1方式）があります。4chステレオ（3-1方式）は、フロント（LR）の音声と、立体感を出すためのサラウンド音声（S）、音声を定位させるためのセンター音声（C）で構成されているので、臨場感のある音響効果が得られます。

BS 放送を受信しているとき

表示コールボタンを押したときに「主」、「副」あるいは、「主／副」と表示されたら二か国語放送を、「ステレオ」と表示されたらステレオ放送を受信しています。

BS ハイビジョン放送では、放送の種類によって複数の音声切換が可能になります。

通常のBS放送を見ているときは、モノラルを選べません。

放送を録画する

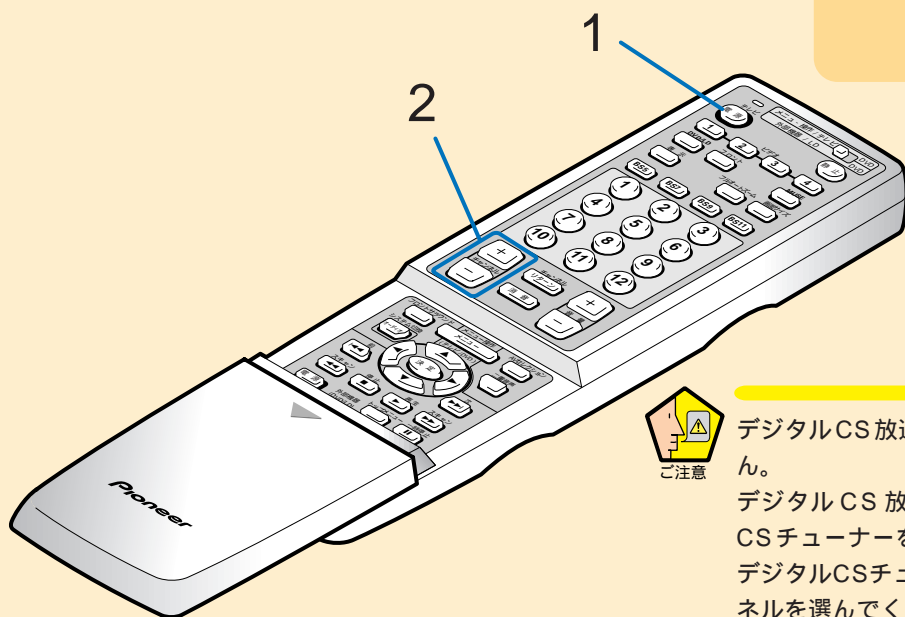
ここでは様々な放送を録画するための操作について説明します。
ビデオデッキをビデオ出力端子に接続すると、現在ご覧になっているVHF放送、UHF放送、BS放送やBSハイビジョン放送を録画できます。
BSハイビジョン放送の録画については次ページもご覧ください。

■ **操作の前にかならず次の接続と準備ができていることを確認してください。**

① VHF/UHFアンテナをつなぐ。(別冊18ページ)
② BSアンテナをつなぎ、アンテナの設定をする。(別冊19～21ページ)
③ BSの有料放送（WOWOW/セント・ギガなど）を録画する場合は、スクランブルされている映像情報を元に戻すための専用のデコーダを本機に接続し、デコーダの設定をする。（別冊22～24ページ）
④ 本機の主電源が入り、スタンバイ状態になっている。（9ページ）

1 電源を入れる

2 録画したいチャンネルを選ぶ

3 ビデオデッキで録画操作をする

デジタルCS放送は、本機では受信できません。
デジタルCS放送を録画するにはデジタルCSチューナーを接続（別冊25ページ）し、デジタルCSチューナーで録画したいチャンネルを選んでください。
S2映像入力端子と映像入力端子に同時に接続すると、S2映像入力端子が優先されます。

BS ハイビジョン放送を録画するには

BS ハイビジョン放送を録画するには、次の２通りの方法があります。

① ふつうのビデオデッキで録画する。
② ハイビジョン用のビデオデッキで録画する。

BS ハイビジョン放送を録画する場合の接続方法については、別冊 34 ページをご覧ください。
現在ご覧になっている BS ハイビジョン放送を録画できます。

ふつうのビデオデッキでハイビジョン放送を録画しますと、現行の NTSC 画像（走査線数 1125 本は 525 本に、画面比率 16：9 は 4：3）に変換されて録画されます。

DVD や LD、ビデオなどを見る

ここでは本機に接続した様々な機器を見るための操作について説明します。

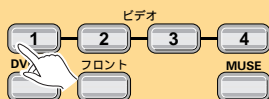
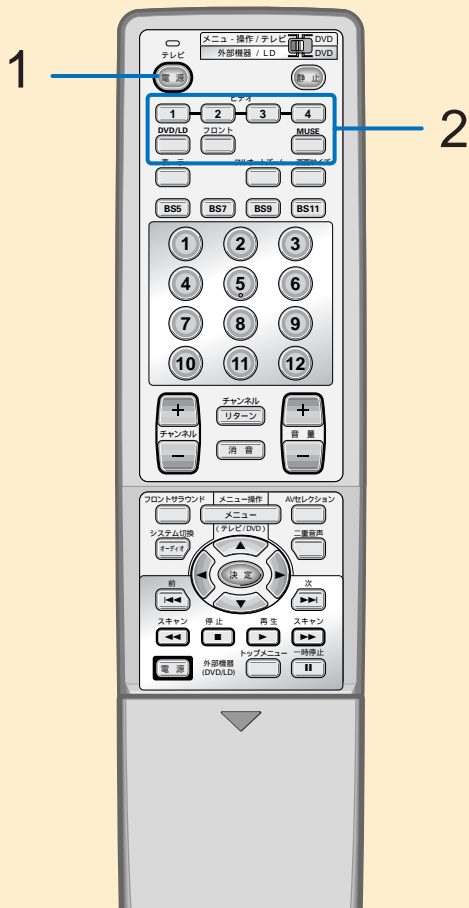
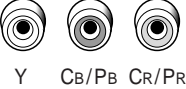
■ **操作の前にかならず次の接続と準備ができていることを確認してください。**

① DVD/LD プレーヤーやビデオデッキを接続する。（別冊 28 〜 30 ページ）

② 本機の主電源が入り、スタンバイ状態になっている。（9 ページ）

1 電源を入れる

2 再生したい機器を選ぶ

（例：ビデオ 1）

3 見たい機器を操作する

別冊の設置マニュアルに基づいて接続した場合には、以下の見たい機器が選べます。ハイビジョン放送で BS 録画設定「オン」にしたとき、MUSE は切り換わりません。

見たい機器	ボタン
DVD/LD プレーヤー	DVD/LD
ふつうのビデオデッキ	1
その他の AV 機器	2
フロント入力端子に接続されている機器	フロント
ハイビジョン用ビデオデッキ	3
デジタル放送対応チューナー	4
ハイビジョン LD プレーヤー	MUSE

本機は映像入力端子として、コンポーネント映像信号、S2 映像信号、映像信号を用意しています。

端子	説明
コンポーネント映像入力端子 Y　CB/PB　CR/PR	入力信号は480i信号、480p信号、1035i信号、1080i信号に対応していますので、BSデジタル放送も高画質でお楽しみいただけます。
D3 映像入力端子	コンポーネント映像信号を 1 本のケーブルで簡単に接続できます。入力信号は480i信号、480p信号、1035i信号、1080i信号の直接入力に対応していますので、BSデジタル放送も高画質でお楽しみいただけます。
S2 映像入力端子	S 映像、S1 映像、S2 映像に対応しています。映像入力よりもよい画質でお楽しみいただけます。
映像入力端子	ほとんどの映像機器と接続できます。

接続する機器の映像信号については、その機器の取扱説明書をお読みください。

本機のリモコンでパイオニア製の外部機器を操作する

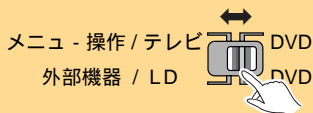
ここでは本機のリモコンを使って、パイオニア製のLDプレーヤーとDVDプレーヤーを操作するための方法について説明します。

■ **操作の前にかならず次の接続と準備ができていることを確認してください。**

① パイオニア製の LD プレーヤーや DVD プレーヤーを接続する。（別冊 29 ページ）

② 本機の主電源が入り、スタンバイ状態になっている。（9 ページ）

1 メニュー操作／外部機器切換スイッチを切り換える

メニュー操作 / テレビ　DVD
外部機器 / LD　DVD

下表を参考にしてください。

2 リモコンでパイオニア製の外部機器を操作する

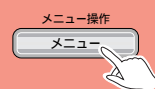
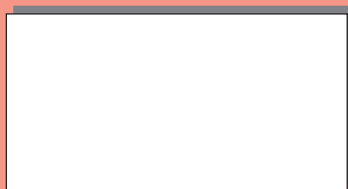
リモコンのスイッチ位置	メニュー操作	外部機器の操作
左にすると	テレビ	LD プレーヤー
右にすると	DVD プレーヤー*1	DVD プレーヤー

*1 下記の機種はメニュー操作ができません。
メニュー操作は各々の機種のリモコンで行ってください。
（DV-7、DVL-9、DV-F21、DVL-K1000、DV-K800）

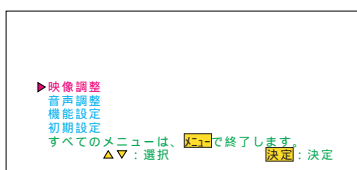
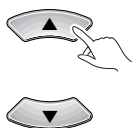
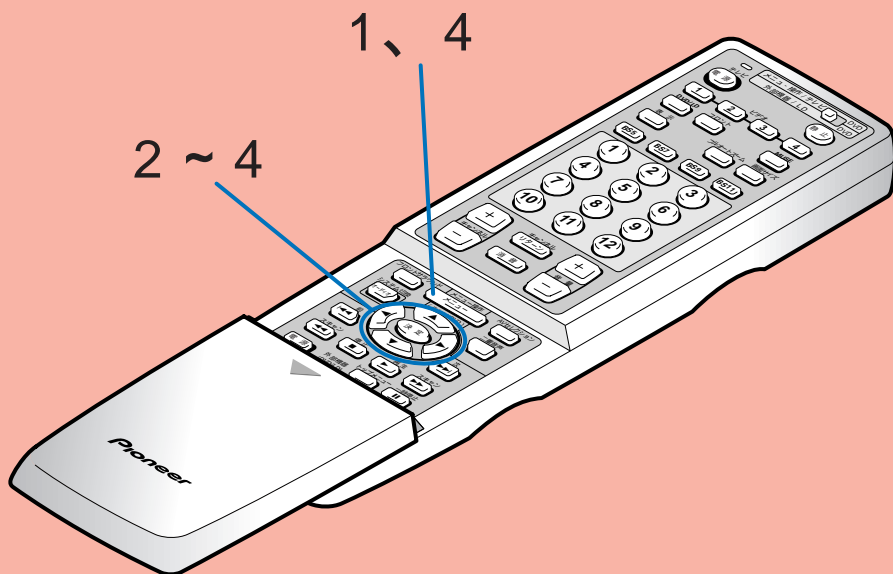
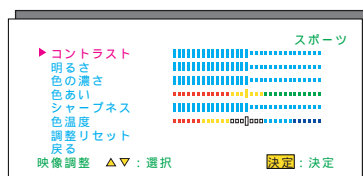
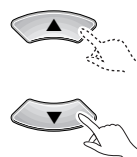
パイオニア製のLDプレーヤーを操作するときは、スイッチを左側にしたままでお使いください。

パイオニア製のDVDプレーヤーを操作するときは、スイッチを右側にしてお使いください。スイッチを右側に切り換えると、本機のメニュー操作はできなくなります。

使いこなし

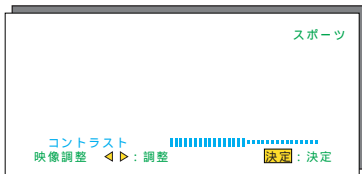
操作中に、もし分からなくなった時はメニューボタンを押してやり直してください。

メニュー画面は、選んでいる入力によっては表示が違う場合があります。

この表示をしている時は、メニュー画面の表示内容が少し違うことを表しています。

画質を調整する

テレビ、DVD、ビデオなどを見ながら調整してください。

手順３で「調整リセット」を選ぶと、ここで調整したことがすべてセンター値になります。

好みに調整した画質をAVメモリーとして記憶させることができます。
38ページをご覧ください。

4 好みの画質に調整する

（右表を参考にしてください。）

コントラストを変えると現在選択しているAVメモリーは“ユーザー”に変わります。

調整が終わったら「メニュー」を押して、通常画面に戻す。

調整した値は各入力ごとに保存されます。

調整項目	◀	▶	調整のポイント
コントラスト	弱くなる	強くなる	周囲の明るさに合わせて、見やすくなるようにする
明るさ	暗くなる	明るくなる	画面の暗い部分が見やすくなるようにする（夜の画面や黒い髪の毛など）
色の濃さ	薄くなる	濃くなる	好みの濃さにする（やや薄めに設定すると自然に見えます）
色あい	赤っぽくなる	緑っぽくなる	肌色がきれいに見えるように調整する
シャープネス	柔らかくなる	くっきりする	通常はセンターでご使用ください。柔らかい感じを出したいときは、センターより左側になるように設定してください。

色温度は◀、▶で以下のように調整できます。

◀	センター	▶
暖かみのある色あいの画質が楽しめます。	落ち着いた画質が楽しめます。	心地よい色あいの画質が楽しめます。

見やすい画質にする

動きモードをオンにする

スポーツ番組など、動きのはやい番組を見るときにオンにしておくと、映像のぼけなどを軽減させることができ、よりクリアな映像が楽しめます。動きモードは、入力ソースや入力ソースの信号形式によっては設定できない場合があり、画面にお知らせの表示が出ます。

フィルムモードを設定する

フィルムモード機能は映画フィルムなど毎秒24コマで撮影された映像信号を自動判別し、映画などをより高画質でお楽しみいただくために、プログレッシブの映像信号に変換する機能です。ふだんは「ハイクオリティー」にしてください。映像処理のため音声信号と時間差が発生しますので、気になるときは「スタンダード」にしてください。「オフ」に設定しますと、通常のプログレッシブの変換のみを行います。

設定が終わったら「メニュー」を押して、通常画面に戻す。

ご注意

以下の場合にはフィルムモードが選べません。
BSハイビジョン放送受信時
MUSE入力時
480pコンポーネント映像信号入力時
1080iコンポーネント映像信号入力時

映像の設定

映像モードを設定する

ディスプレイを設置した場所や部屋が、明るすぎると画面が見にくいことがあります。このようなときは「映像モード設定」を変更して、見やすい画面を選択してください。

1 メニュー画面にする

2「初期設定」を選ぶ

3「映像モード設定」を選び、「ダイナミック」に設定する

設定が終わったら「メニュー」を押して、通常画面に戻す。

- 「標準」と「ダイナミック」から選択できます。お好みの画面になる方を選択してください。
- **「標準」**：標準的な部屋の明るさに最適な画面になります。
- **「ダイナミック」**：明るい部屋にあわせた、くっきりとした明るい画面になります。

映像モード設定は特に画面が見にくいなどの問題がない場合は、設定を「標準」にしてご使用になることをお勧めします。

映像だけを消す

映像ミュートをオンにする

映像ミュートの設定について

「オフ」にすると　　　　：ふだんの状態です。
「オン」にすると　　　　：映像が消えます。
「オン（表示）」にすると：映像が消え、現在選んでいる入力を文字で表示します。

1 メニュー画面にする

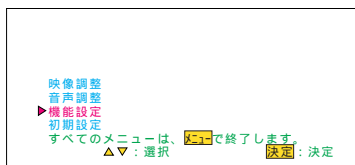
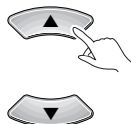
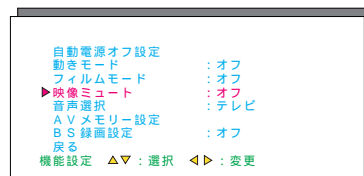
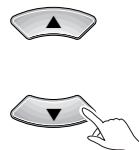
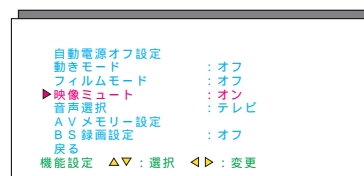
2「機能設定」を選ぶ

映像調整
音声調整
▶機能設定
初期設定
すべてのメニューは、メニューで終了します。
△▽：選択　決定：決定

3「映像ミュート」を選ぶ

自動電源オフ設定
動きモード　：オフ
フィルムモード　：オフ
▶映像ミュート　：オフ
音声選択　：テレビ
ＡＶメモリー設定
ＢＳ録画設定　：オフ
戻る
機能設定　△▽：選択　◁▷：変更

4 設定する

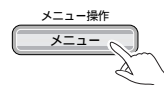
自動電源オフ設定
動きモード　：オフ
フィルムモード　：オフ
▶映像ミュート　：オン
音声選択　：テレビ
ＡＶメモリー設定
ＢＳ録画設定　：オフ
戻る
機能設定　△▽：選択　◁▷：変更

設定が終わったら「メニュー」を押して、通常画面に戻す。

1、4

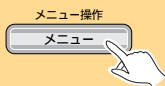
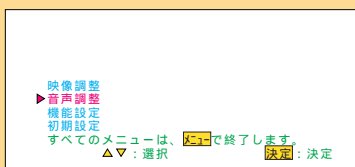
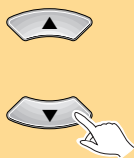
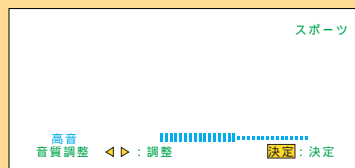
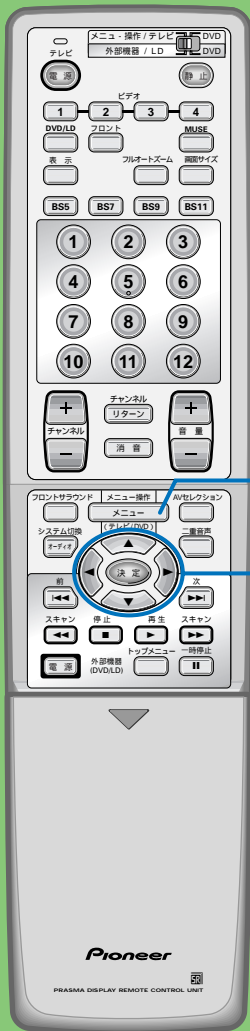
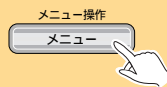
2 ～ 4

セント・ギガを聞くときなどに使うと便利です。

映像ミュートは、AVメモリーには記憶されません。

映像ミュートを解除するには
音量・二重音声・フロントサラウンド・オーディオシステム切換・消音以外のボタンを押してください。

映像の設定

音質を調整する

高音と低音そして左右の音量のバランスの調整ができます。
テレビ、DVD、ビデオなどを見ながら調整してください。

ひとこと

手順３で「調整リセット」を選ぶとこのページで調整したことがセンター値になります。

便利

好みに調整した音質を AV メモリーとして記憶させることができます。40 ページをご覧ください。

調整が終わったら「メニュー」を押して、通常画面に戻す。

BS 独立音声放送（セント・ギガ）を聞く

ここではBS独立音声放送（セント・ギガ）を聞くための操作について説明します。
1999年6月現在、 BS独立音声放送（セント・ギガ）はBS5チャンネルの独立音声（Aモード）で放送されています。
BS独立音声放送（セント・ギガ）を聞くには、受信契約をしてBSデコーダを用意します。
有料放送の場合には、デコーダの設定を切り換えなければならない場合があります。
デコーダの設定を確認してください。（別冊23ページ）

1 BS5チャンネルを受信する

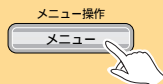
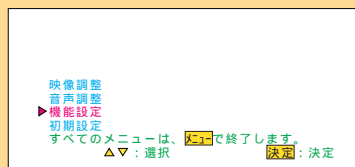
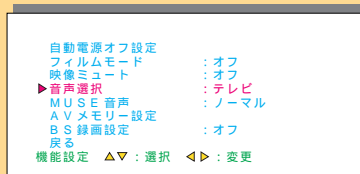
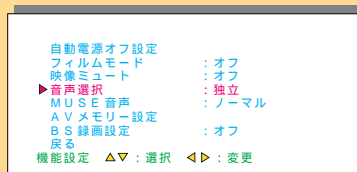
BS録画設定を「オン」にした場合は、設定したBSチャンネル以外は選べません。

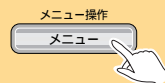
2 メニュー画面にする

3「機能設定」を選ぶ

4「音声選択」を選ぶ

5「独立」に設定する

自動電源オフ設定
フィルムモード ：オフ
映像ミュート ：オフ
▶音声選択 ：独立
ＭＵＳＥ音声 ：ノーマル
ＡＶメモリー設定
ＢＳ録画設定 ：オフ
戻る
機能設定 △▽：選択 ◁▷：変更

映像を見たくない場合には、映像だけを消す（33ページ）をご覧ください。

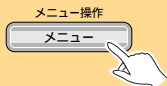
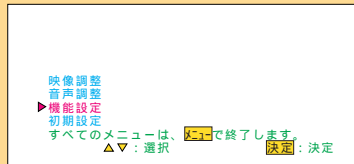
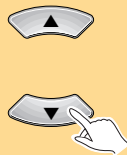
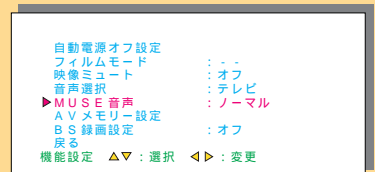
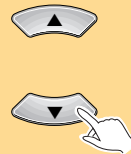
設定が終わったら「メニュー」を押して、通常画面に戻す。

臨場感のある音を楽しむ

3-1 方式サラウンドを楽しむ

BS ハイビジョン放送とハイビジョン用 LD の信号が 4CH ステレオ（3-1 方式）のときに使用します。
MUSE 音声をミックスにすると、本機のスピーカー、左（L）と右（R）から、サラウンドとセンターの音声が混成され、ハイビジョン放送の 3-1 方式サラウンドを手軽に楽しむことができます。
MUSE デコーダ出力の音声も、左（L）と右（R）からサラウンドとセンターの音声が混成されて出力されます。

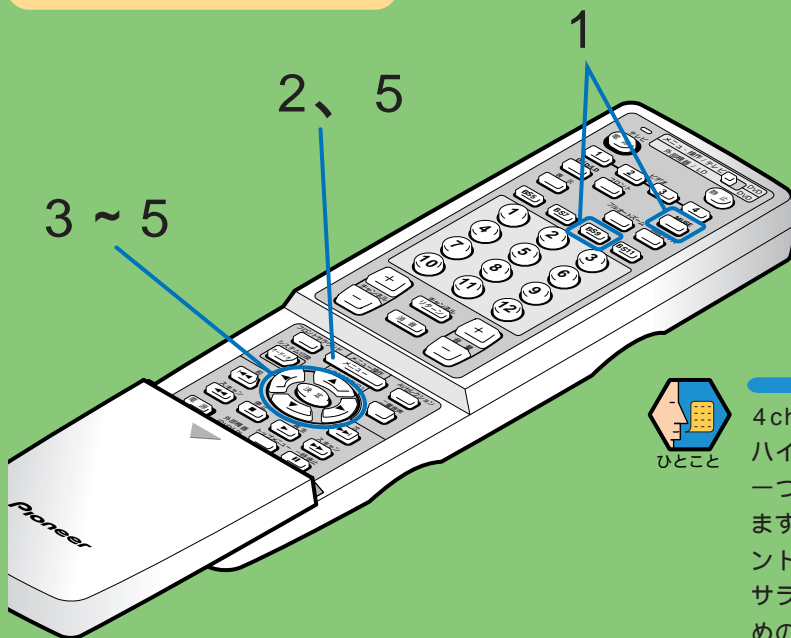
1 BS ハイビジョン放送、またはハイビジョン用 LD を選ぶ

ハイビジョン放送で BS 録画設定「オン」にしたとき MUSE は、選べません。

2 メニュー画面にする

3「機能設定」を選ぶ

4「MUSE 音声」を選ぶ

ミックス

4ch ステレオ（3-1 ミックス）のとき、センター、サラウンド音声をフロント（左右）音声に混成します。

ノーマル

4chステレオ（3-1ミックス）のとき、テレビのスピーカーからはフロント左右の音声しか出ません。外部のステレオシステムを使用してサラウンドを楽しむ場合にご使用ください。

ひとこと

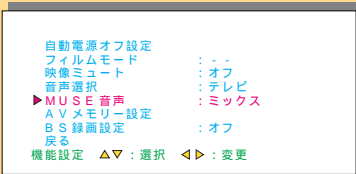
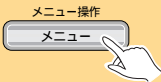
4ch ステレオ（3-1 方式）について

ハイビジョン放送（ミューズ方式）の音声の一つに、4ch ステレオ（3-1 方式）があります。4ch ステレオ（3-1 方式）は、フロント（LR）の音声と、立体感を出すためのサラウンド音声（S）、音声を定位させるためのセンター音声（C）で構成されているので、臨場感のある音響効果が得られます。

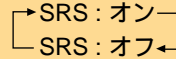
フロントサラウンド（SRS）を楽しむ

本機の左右のスピーカーで、迫力のあるサラウンド効果を楽しめます。

5 「ミックス」を選ぶ

自動電源オフ設定
フィルムモード　：－－
映像ミュート　：オフ
音声選択　：テレビ
▶ＭＵＳＥ音声　：ミックス
ＡＶメモリー設定
ＢＳ録画設定　：オフ
戻る
機能設定　△▽：選択　◁▷：変更

設定が終わったら「メニュー」を押して、通常画面に戻す。

「フロントサラウンド」を押す

押すたびにオン・オフが切り換わります。

SRS：オン
SRS：オフ

■　SRS（サウンドリトリーバルシステム）について

SRS（サウンドリトリーバルシステム）は人間の聴覚にあわせた音場補正を行うことで、２つのスピーカーより再生されるステレオ音声を、より自然で立体的な音に再現する技術です。

音声の設定

好みの画質、音質にする（AVセレクション）

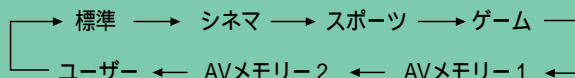
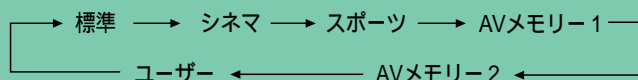
本機はいろいろな映像環境に応じた画質、音質の設定がメモリーされています。この中から好みに応じて選択するか、または自分の好きな画質、音質を設定することができます。

設定されている AV メモリーを選ぶ

本機にはあらかじめシネマ・スポーツ・ゲームなどの AV メモリーがプリセットされており、AV セレクションボタンを使って選ぶことができます。また、プリセットされた AV メモリーの他にも、自分の好みに調整した画質と音質を AV メモリー 1 と 2 に記憶させることができます。AV メモリー 1、2 の設定については 40 ページをご覧ください。

「AVセレクション」を押して切り換える

「AV セレクション」を 1 度押すと標準になり、画面に表示が出ている間に押すと入力モードによって次のように切り換わります。

① テレビ以外の入力時の「AV メモリー」について

② テレビ入力時の「AV メモリー」について

画面焼き付きのご注意

本機を長い間ご愛用していただくために…

テレビゲーム機や静止画の再生などは、画面焼き付きなど悪影響を与えることがありますので、必ず AV メモリーを「ゲーム」に設定し、2 時間以内のご使用としてください。テレビゲーム機などを使用後は、その時間の 3 倍以上、通常の放送などをナチュラルワイドの画面サイズでご覧になるようにしてください。動きのある映像は画面焼き付きの発生を緩和する効果があり、ディスプレイ内部への悪影響が軽減されます。

TV チャンネルを選んだ場合、AV セレクションで「ゲーム」は選択できませんので、アンテナ端子からのゲーム機接続は避けてください。

AV メモリーについて

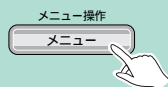
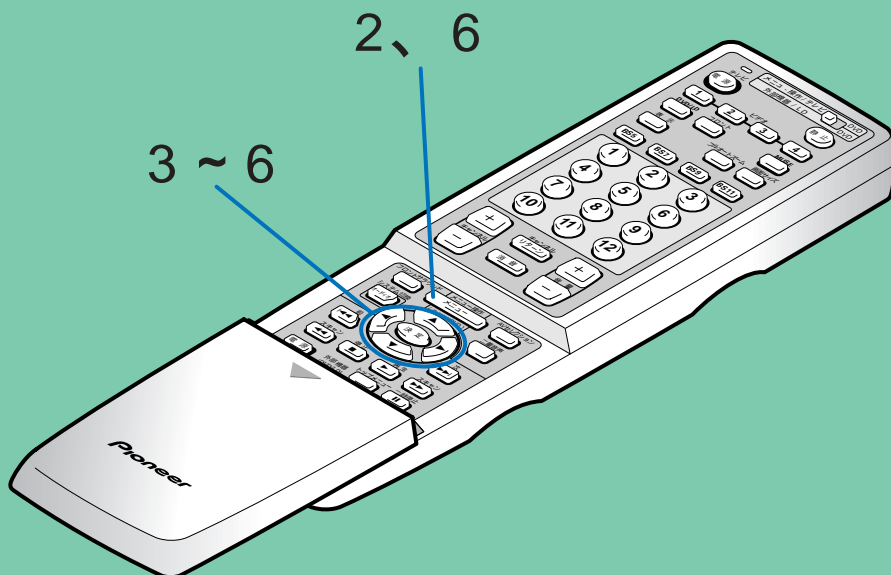
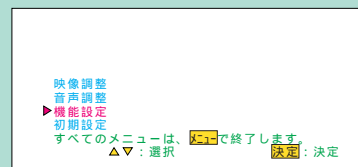
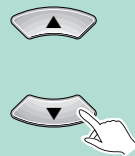
標準 .... 画質と音質の設定値がすべてセンター値になります。
シネマ .... コントラスト感を抑え、暗い映像を見やすくします。夜の背景など、暗い画面の多い映画などに効果的です。
スポーツ .... くっきりとした色鮮やかな映像で、スポーツ映像を迫力にあふれたものにします。
ゲーム .... テレビゲームなどの映像を、明るさを抑えて目にやさしい映像にします。明るさを抑えることで本機のディスプレイ内部の焼き付きなどの悪影響を軽減させる働きにもなります。
AV メモリー ...... AV メモリー 1 と 2 に 2 種類の画質と音質の設定を記憶させることができます。AV メモリーの設定については 40 ページをご覧ください。
ユーザー .... 画質と音質が、各入力ごとに最後に調整された状態になります。

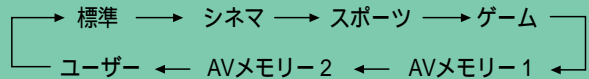
AV メモリーに自分の好みの画質や音質を設定する場合

本機の AV メモリーは AV メモリー 1 と 2 の 2 種類の画質と音質の設定を記憶させることができます。

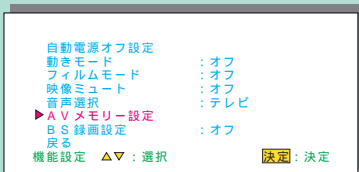
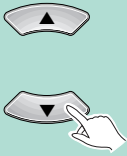
1 あらかじめ画質と音質を自分の好みに調整する

画質を調整する（28 ページ）、音質を調整する（34ページ）をご覧ください。

2 メニュー画面にする

3「機能設定」を選ぶ

AV メモリーには、自分の好みに調整した画質と音質を AV メモリー 1 と 2 として設定する他に、あらかじめ本機にプリセットされているシネマ、スポーツ、ゲームを選ぶことができます。リモコンの「AVセレクション」ボタンを押すと以下のように設定が切り換わります（テレビ入力時は、ゲームは選択できません）。

→ 標準 → シネマ → スポーツ → ゲーム
← ユーザー ← AVメモリー2 ← AVメモリー1 ←

AV メモリーの選びかたについては 38 ページをご覧ください。

4 「AV メモリー設定」を選ぶ

自動電源オフ設定
動きモード ：オフ
フィルムモード ：オフ
映像ミュート ：オフ
音声選択 ：テレビ
▶AV メモリー設定
BS 録画設定 ：オフ
戻る
機能設定 △▽：選択 決定：決定

5 「AVメモリー1、2」のどちらかを選ぶ

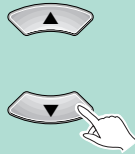
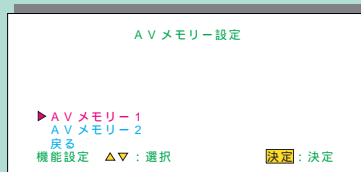
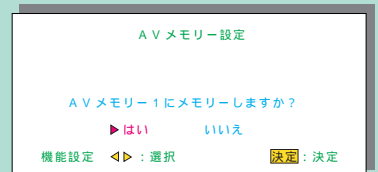
（例：AV メモリー 1）

AV メモリー設定

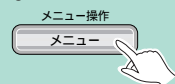
▶AV メモリー 1
AV メモリー 2
戻る
機能設定 △▽：選択 決定：決定

6 AVメモリーを登録する

AV メモリー設定

AV メモリー 1 にメモリーしますか？
▶はい いいえ
機能設定 ◁▷：選択 決定：決定

設定が終わったら「メニュー」を押して、通常画面に戻す。

ご注意

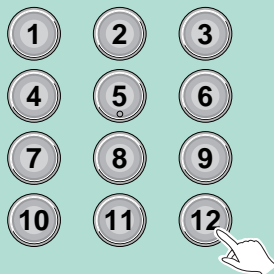
テレビゲーム機や静止画の再生などは、画面焼き付きなど悪影響を与えることがありますので、必ず AV メモリーを「ゲーム」に設定し、2 時間以内のご使用としてください。（詳細は 38 ページを参照）

その他の設定

受信チャンネルを自動で設定する

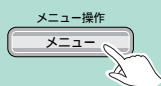
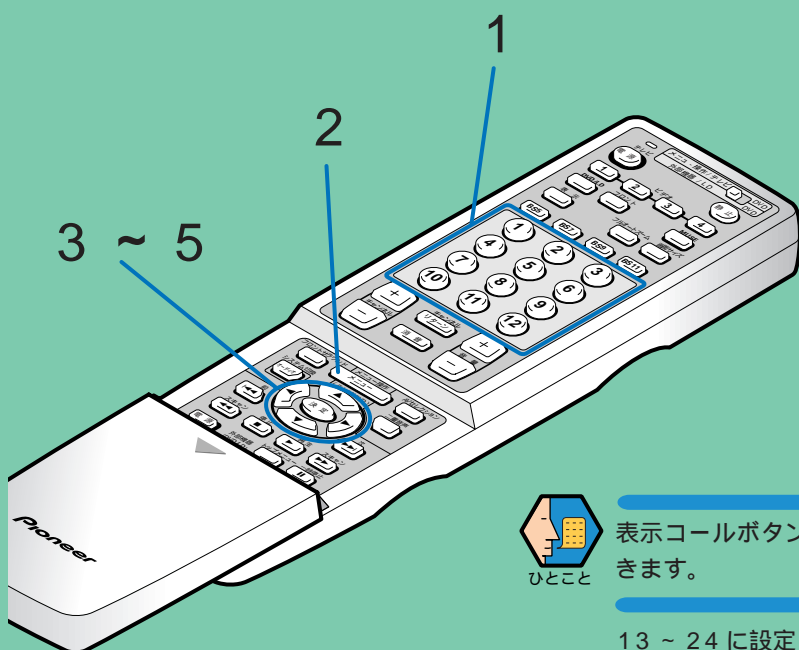
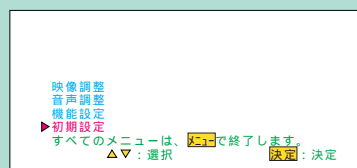
本機をご使用の地域にあったチャンネルを自動的に設定します。
設定できるチャンネルの数は 24 です。

・ BS 録画設定（56 ページ）が「オン」になっていると、初期設定ができません。

1 テレビのチャンネルを選ぶ

（例：12 チャンネル）

2 メニュー画面にする

3 「初期設定」を選ぶ

ひとこと

表示コールボタンを押すと、設定してある状態を確認できます。

13 〜 24 に設定したチャンネルを見るには

リモコンのチャンネル番号を 2 回続けて押します。

例）1 チャンネルを 2 回続けて押すと
13 チャンネルが表示されます。

自動設定を途中でやめたいときは
「メニュー」を押します。(自動設定を途中でやめると、チャンネルは設定されません。)

残量表示について
自動設定を行っている間、画面に

：終了

と、表示されます。
これは、自動設定が終了するまでの進行状態を表示しています。

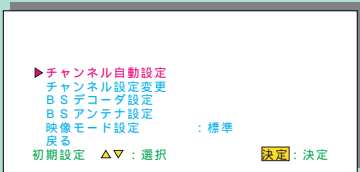
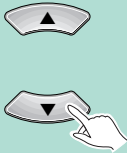
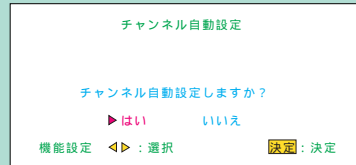
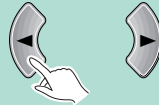
4 「チャンネル自動設定」を選ぶ

▶チャンネル自動設定
チャンネル設定変更
ＢＳデコーダ設定
ＢＳアンテナ設定
映像モード設定　　：標準
戻る
初期設定　▲▼：選択　決定：決定

決 定

5 「はい」を選ぶ

チャンネル自動設定

チャンネル自動設定しますか？
▶はい　いいえ
機能設定　◀▶：選択　決定：決定

受信できるチャンネルを　VHF→UHF→CATVの順に自動的に設定します。自動設定は、1〜12チャンネルを設定してから、13チャンネル以上に移ります。好きなチャンネルを設定したいときは、次ページの操作を行ってください。

その他の設定

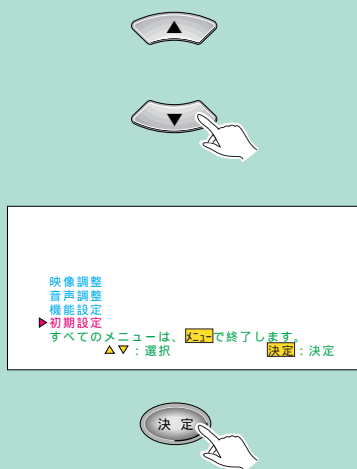
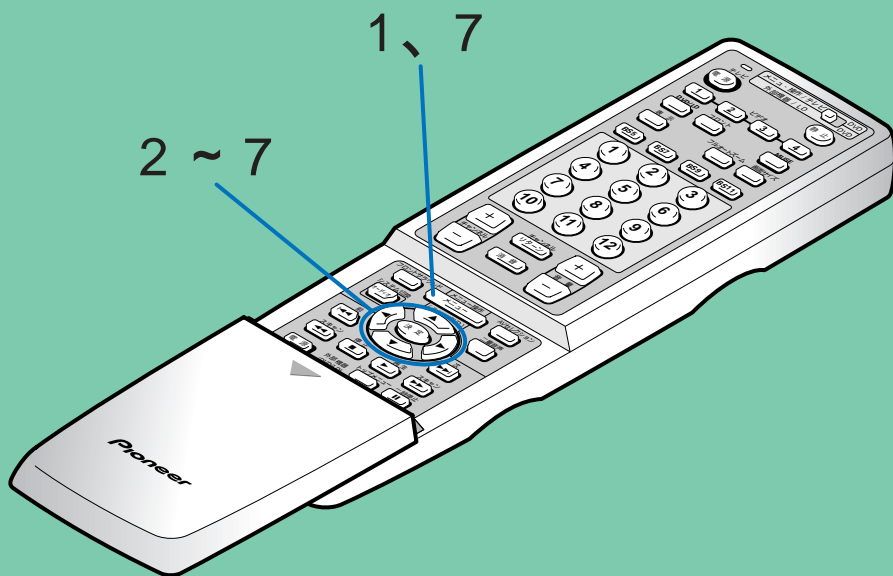
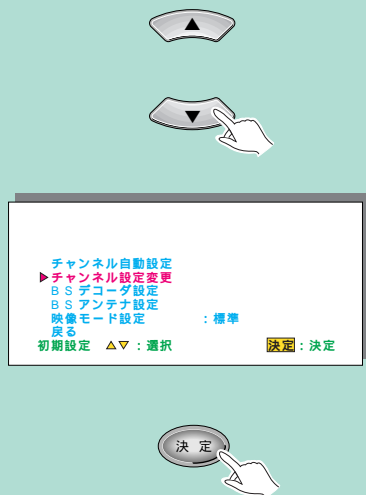
チャンネルを自分で設定する(チャンネル表示を書き換える)

- UHF放送を見るときは、チャンネル番号1～24のうちの空いているチャンネルに、見たい放送局を設定します。（CATV を受信する場合も、同じように放送局を設定します。）
- VHFチャンネルはお買い上げ時にすでに設定されていますが、放送のないチャンネルをとばすために、設定し直すことができます。
- チャンネル表示は、通常“ 1 ”のように数字で表示されますが、好みに応じて“ NHK ”というように表示内容を書き換えることができます。（表示文字数は最大 6 文字まで）
- BS 録画設定（56 ページ）が「オン」になっていると、初期設定ができません。

お買い上げ時のチャンネル設定について

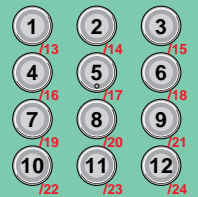
チャンネル番号１～12には、VHF放送の１～12チャンネルが設定されています。

13～24に設定したチャンネルを見るには

リモコンのチャンネル番号を２回続けて押します。

１チャンネルを２回続けて押すと13チャンネルが表示されます。

4 空きチャンネル(－－)を選ぶ

(例：5チャンネル)

チャンネル設定変更

リモコン	ＣＨ(設定)	表示
1	1	□□ＴＶ□ 1
2	－－	□□□□□□
3	3	□□ＴＶ□ 3
4	4	□□ＴＶ□ 4
▶ 5	－－	□□□□□□
6	6	□□ＴＶ□ 6
7	－－	□□□□□□

初期設定　△▽：選択　◁▷：変更　決定：戻る

5 「CH(設定)」の列で、放送局を選ぶ

(例：42チャンネル)

チャンネル設定変更

リモコン	ＣＨ(設定)	表示
1	1	□□ＴＶ□ 1
2	－－	□□□□□□
3	3	□□ＴＶ□ 3
4	4	□□ＴＶ□ 4
▶ 5	4 2	□ＴＶ□ 4 2
6	6	□□ＴＶ□ 6
7	－－	□□□□□□

初期設定　△▽：選択　◁▷：変更　決定：表示

放送局を選んだら

リモコン5にTV42チャンネルが設定され、次のページの手順6の画面になります。

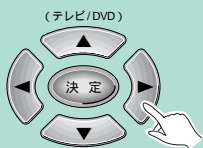
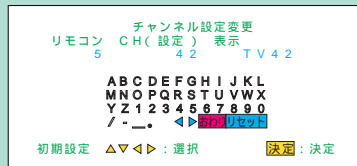
放送のないチャンネルをとばすには

チャンネルボタン（+、－）で選局時に、登録されている映りの悪いチャンネルをとばすことができます。

手順4でとばしたいチャンネルを選び、手順5で“ －－ ”を選んだ後、「決定」を押してください。

その他の設定

6 好みの表示内容を▲、▼、◄、► で入力する。

・ 6 文字まで入力できます。(例の " TVK " のように 3 文字の場合は、最初に 3 文字分スペースを入力しておきます。)

(例：TVK)

文字を 1 つ選んだら

選んだ文字が決定され、カーソルが右に 1 つ移ります。
次の文字も同じように入力します。

リセットを選ぶと、表示の内容が受信しているチャンネル番号を表示します。

入力に使用できる文字は次の41文字です。
「A～Z、0～9、／、ー、＿、.(ピリオド)、□(スペース)」

入力を間違えたときは

この ◄、► を選んで、

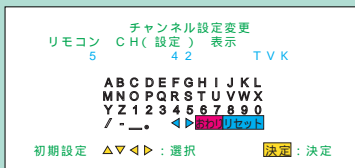
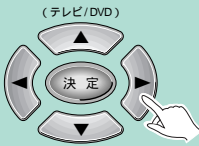
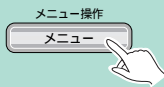
間違えた部分にカーソルを戻します。
あとは手順6と同様に直したい文字を選んで、

7 チャンネル表示を決定する

おわりを選んで、

決 定

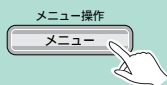
設定が終わったら「メニュー」を押して、通常画面に戻す。

その他の設定

入力表示を書き換える

DVD/LD やビデオ 1、ビデオ 2 などの入力に切り換えたときに画面に表示される内容を、書き換えることができます。

例えば、ふつうは“ DVD/LD ”と表示されるところを“ DV-S9 ”というように製品の型番で表示させることができます。（表示文字数は最大 6 文字まで）

例 :“ DVD/LD ” という入力切換の表示を、“ DV-S9 ” と書き換える場合
書き換えたい入力を選んでから、以下の手順で書き換えます。

1 メニュー画面にする

2 「初期設定」を選ぶ

3 「入力表示設定」を選ぶ

ひとこと

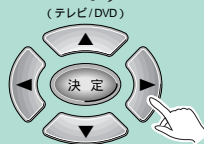
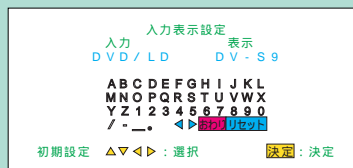
入力を間違えたときは

この◄、►を選んで、決定

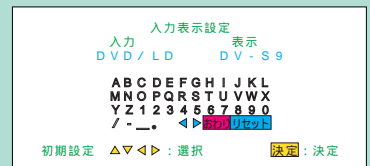
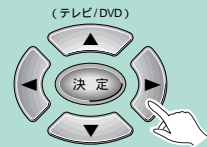
間違えた部分にカーソルを戻します。
あとは手順5と同様に直したい文字を選んで、決定

4 書き換えたい入力表示を選ぶ

5 ▲、▼、◄、►で文字を選んで入力する

・6文字まで入力できます。（例の“DV-S9”のように5文字の場合は、最初に1文字分スペースを入力しておきます。）

（例：DV-S9）

文字を1つ選んだら

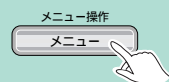
選んだ文字が決定され、カーソルが右に1つ移ります。
次の文字も同じように入力します。

6 入力表示を決定する

おわりを選んで、

書き換えが終わったら「メニュー」を押して、通常画面に戻す。

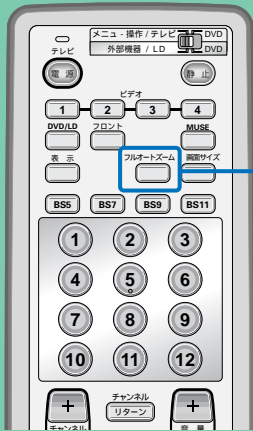
ひとこと

入力に使用できる文字は次の41文字です。
「A～Z、0～9、／、ー、＿、．（ピリオド）、□（スペース）」

その他の設定

画面サイズを切り換える

・本機は、様々な縦横比の画面モードに対応しています。受信番組や使用するソフトに合った最適な画面モードでご覧になることをお勧めします。
・ワイド画像でない４：３の映像をナチュラルワイドやシネマワイド、ズーム、フルを利用して、ワイドテレビの画面いっぱいに表示してご覧になると、画像が一部欠落したり、変形して見えます。

自動で切り換える（フルオートズーム）

フルオートズーム機能は、見ている映像に適した画面サイズに、自動的に切り換えます。スポーツ番組や映画を見るときには、広がり感のある迫力の映像が楽しめます。（MUSE、480p、1080i、ハイビジョン放送入力時には使えません。）

「フルオートズーム」を押す

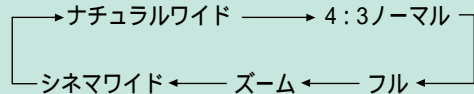
オンにするとフルオートズーム機能が働きます。
オフにするとフルオートズーム機能は働きません。

4:3 テレビの画面状態	フルオートズームがオンのときの画面状態	
ノーマル	ナチュラルワイド（自動）	４：３映像は、ナチュラルワイドに切り換えます。 **ご注意：** *暗い場面の場合、シネマワイド、ズームに切り換わる場合があります。このようなときは、フルオートズーム機能をオフにしてください。*
ビスタサイズ	シネマワイド（自動）	黒帯のある横長のワイド映像ソフト（ビスタサイズ、シネスコサイズなど）は、上下の黒帯をカットして、見やすい画面サイズに切り換えます。 **ご注意：** *・レーザーディスクやDVD、ビデオなどのソフトによっては、画面上下の一部が欠けたり、黒帯が見えることがあります。* *・映像信号の種類によっては、フルオートズームのオン／オフに関わりなく、画面サイズは自動で切り換わります。* *53ページをご覧ください。*
シネスコサイズ または 16：9 サイズ	ズーム（自動）	

手動で切り換える

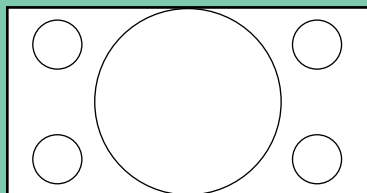
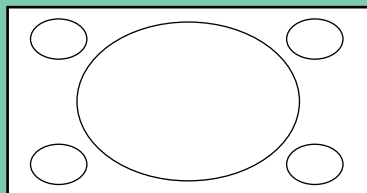
画面に映る映像の大きさや、映し出す映像の範囲を 5 種類の画面サイズに切り換えることができます。

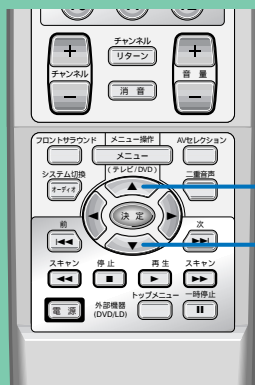
「画面サイズ」を押して切り換える

→ナチュラルワイド ——→ 4：3ノーマル
シネマワイド ←—— ズーム ←—— フル ←

画面サイズ切換ボタンを押すとフルオートズーム機能はオフになります。

		普通のテレビ番組のときの見え方	
	従来のテレビ		
画面サイズ切り換え	ナチュラルワイド ↓		ニュースやスポーツ番組などを見るときに適しています。映画やスポーツ番組などでは、広がり感のある迫力の映像が楽しめます。
	4対3ノーマル ↓		ニュースやドラマ番組などを見るときに適しています。映像ソフト本来の画面枠の形で見ることができます。（本機は画面の焼き付きを防ぐため、電源を入れるたびに画面枠の表示位置を少しずつ変えています。）
	フル		ハイビジョン映像、またはワイド画面用の映像（スクイーズ）に適しています。
	↓ ズーム		劇場サイズの映像のうち、主に「シネスコ（シネマスコープ）サイズ」の映像を見るときなどに適しています。より広がり感のある迫力の映像が楽しめます。
	↓ シネマワイド		劇場サイズの映像のうち、主に「ビスタサイズ」の映像を見るときなどに適しています。より広がり感のある迫力の映像が楽しめます。字幕スーパー付きのシネスコサイズの映像を見るときにはこの画面サイズが便利です。

ビデオ3、ビデオ4、DVD/LD入力で1035i、1080iコンポーネント映像信号を表示した場合は、「フル1」、「フル2」に画面サイズを切りかえることができます。

フル1

フル2

画面の位置を上下に動かす

画面サイズがズームまたはシネマワイドのとき▲、▼で画面の位置を調整できます。

▲、▼で画面の位置を調整する

ひとこと

フルオートズームがオンのときは、自動で画面サイズが切り換わります。
ビスタサイズの映画などを、シネマワイドまたはズームで見ると、映像が画面の中央からはずれたり、はみ出す場合があります。このようなときは、▲、▼で見やすい画面位置に調整してください。

受信した信号によって画面サイズが自動で切り換わる

S1、S2 映像信号またはワイドクリアビジョン放送、MUSE 信号、ハイビジョン信号などを識別すると、自動的に画面サイズが切り換わり、下の表のような画面表示が出ます。

受信内容	動作内容	画面表示
BS ハイビジョン放送や、MUSEなどのハイビジョン信号を受信すると	識別制御信号を識別して自動的に画面サイズが「フル」になります	フル（自動：MUSE）
ワイドクリアビジョン放送を受信すると	識別制御信号を識別して自動的に画面サイズが「ズーム」になります	ズーム（自動：EDTVII）
S1 映像信号を受信すると	識別制御信号を識別して自動的に画面サイズが「フル」になります	フル（自動：スクイーズ）
S2 映像信号を受信すると	識別制御信号を識別して自動的に画面サイズが「ズーム」になります	ズーム（自動：レターボックス）

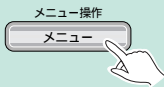
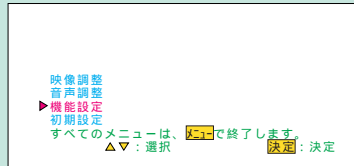
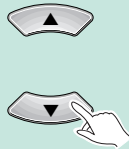
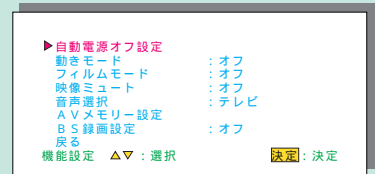
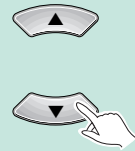
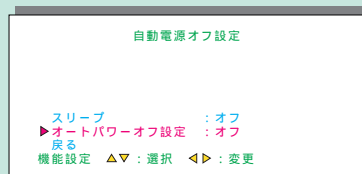
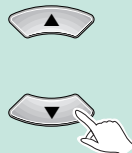
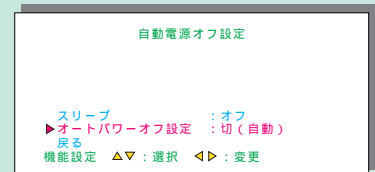
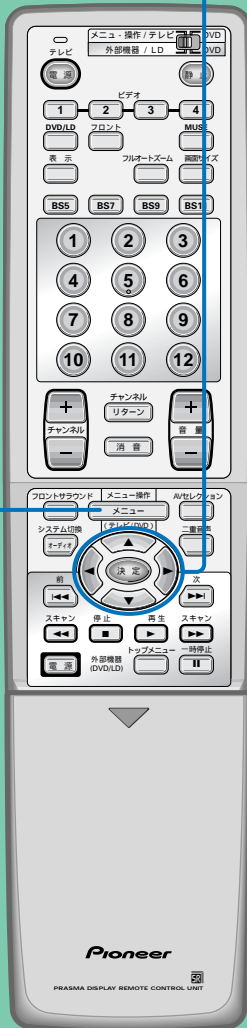
本機を営利目的または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店・ホテル等において、ワイドモードおよびズームモードなどの画面モードの切り換え機能を利用して、画面の圧縮、引き伸ばし等を行いますと、著作権法により保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意ください。

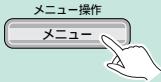
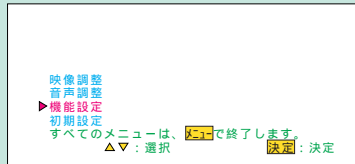
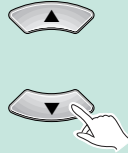
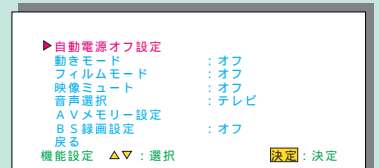
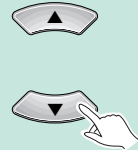
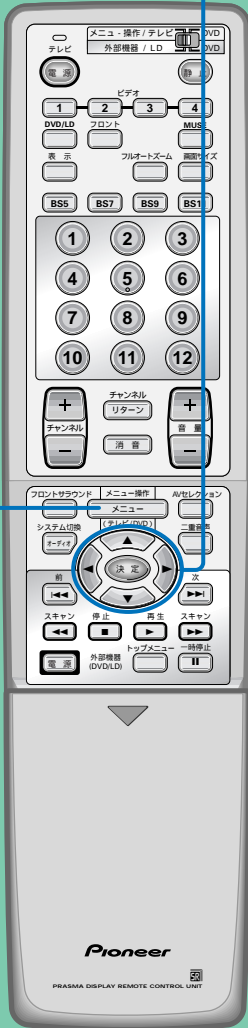
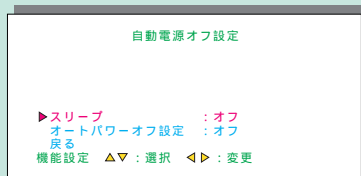
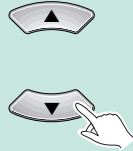
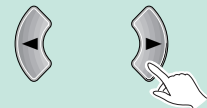
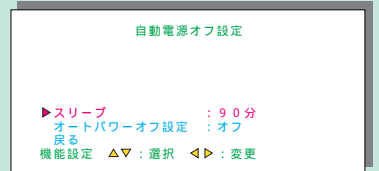
画面モードが切り換わるとき、画像が途切れますが、故障ではありません。

電源を自動的に切る(オートパワーオフ、スリープ)

本機は、オートパワーオフ機能とスリープ機能の設定により、自動的に電源を切り、スタンバイ状態にすることができます。

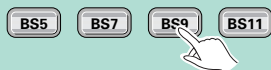
オートパワーオフ機能の設定

本機は、オートパワーオフ機能により、8分以上画像信号を検知しない場合、自動的に電源をスタンバイ状態にすることができます。(スタンバイ状態になる前に、画面にお知らせの表示＜まもなく電源をオフにします＞が出ます。)

スリープ機能の設定

本機は、スリープ機能により、設定した時間が経過したときに自動的に電源をスタンバイ状態にすることができます。（スタンバイ状態になる前に、画面にお知らせの表示＜まもなく電源をオフにします＞が出ます）

その他の設定

BS 放送を留守録画する（BS 録画設定）

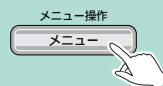
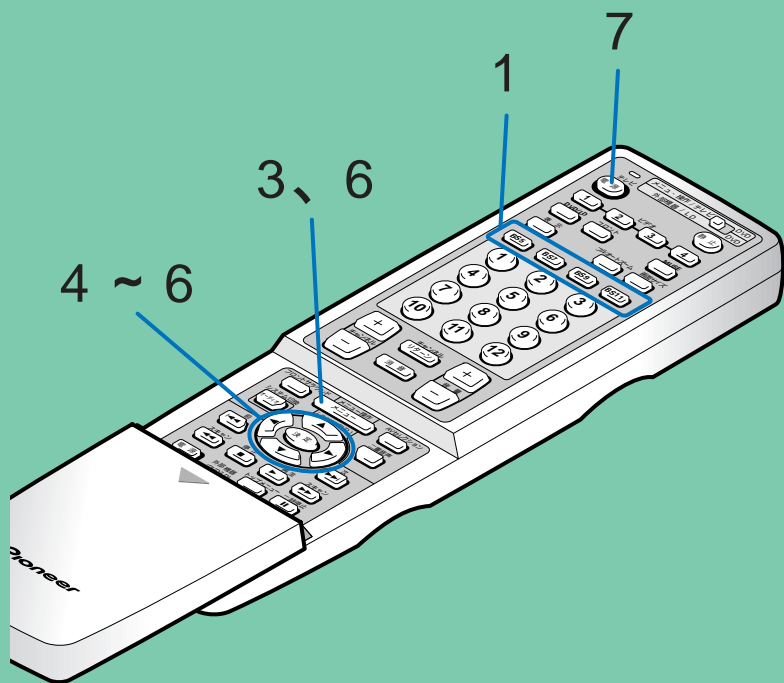
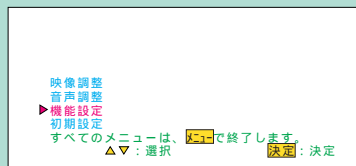
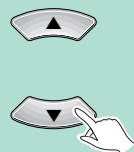
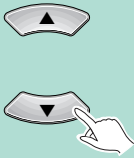
本機は BS チューナーを内蔵しており、BS 放送と BS ハイビジョン放送を留守録画／裏録画することができます。
BS 放送を録画をしないときには、BS 録画設定を「オフ」にしてください。

1 留守録画したい B S チャンネルを選ぶ

（例：BS9 チャンネル）

2 音声を設定する

20 ページを参照して「二重音声」の設定をします。

BSハイビジョン放送を録画するときには、「MUSE音声」も設定します。（36 ページ）

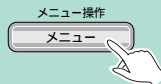
3 メニュー画面にする

4「機能設定」を選ぶ

5 「BS録画設定」を選ぶ

自動電源オフ設定
動きモード　：オフ
フィルムモード　：オフ
映像ミュート　：オフ
音声選択　：テレビ
ＡＶメモリー設定
▶ＢＳ録画設定　：オフ
戻る
機能設定　△▽：選択　◁▷：変更

6 「オン」を選ぶ

自動電源オフ設定
動きモード　：オフ
フィルムモード　：オフ
映像ミュート　：オフ
音声選択　：テレビ
ＡＶメモリー設定
▶ＢＳ録画設定　：オン
戻る
機能設定　△▽：選択　◁▷：変更

7 リモコンの「電源」ボタンを押して、本機をスタンバイ状態にする

留守録画中になります

設定が終わったら「メニュー」を押して通常画面に戻す

BS放送以外の番組を見ることができます。（裏録画）

裏録画中にディスプレイの主電源を切ると留守録画状態になります。留守録画中にディスプレイの主電源を切っても、留守録画は解除されません。

BS 録画設定を「オン」に設定すると、他の BS 放送は見られなくなります。

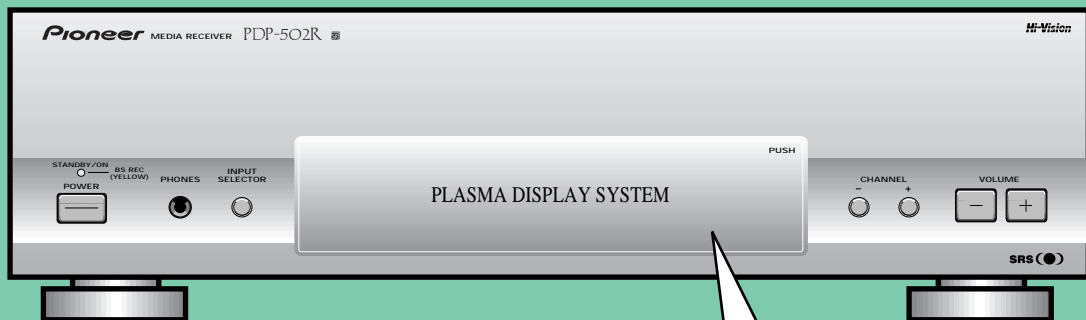
ハイビジョン放送が放送されているBSチャンネルで BS 録画設定を「オン」にすると MUSE には切り換わりません。

BS 放送を留守録画しているときに、本機の電源を入れると録画中の放送にノイズが入ることがあります。

BS 録画が終わったら、BS 録画設定を「オフ」にしてください。

機能を初期の設定状態に戻す

クリアボタンは、いろいろな設定をした後で、その状態がわからなくなってしまった時に押すと便利です。
本機の電源が入っている状態のとき、メディアレシーバーの CLEAR ボタンを 4 秒間以上押し続けます。
本機の設定が次のように切り換わり、電源が入ります。

CLEARボタンを 4 秒以上押し続ける

音声ミュート（消音）（17、19 ページ）：機能オフ
映像ミュート（33 ページ）：機能オフ
メニュー：機能オフ
フロントサラウンド（37 ページ）：機能オフ
フルオートズーム（50 ページ）：機能オフ
オートパワーオフ（54 ページ）：機能オフ
MUSE サブ入力（別冊 31 ページ）：機能オフ
EFM 音声（別冊 32 ページ）：機能オフ
スリープ（55 ページ）：機能オフ
BS 録画設定（56 ページ）：機能オフ
入力切換（12 ページ）：テレビ
音声選択（35 ページ）：テレビ
オーディオシステム切換（61 ページ）：内部
画面サイズ（51 ページ）：ナチュラルワイド
画面の垂直位置（52 ページ）：センター値
AV セレクション（38 ページ）：標準
二重音声（20 ページ）：主
MUSE 音声（36 ページ）：ミックス
音量：10 目盛り
動きモード（30 ページ）：機能オン
コンポーネント入力設定（別冊 29 ページ）：自動

次の２つの設定は、最後の設定状態が記憶されています。CLEAR ボタンを押しても、リセットされません。

① チャンネル設定（42 ページ）
② AV メモリー 1、2 として設定を記憶させている調整値（40 ページ）

ホームシアターについて

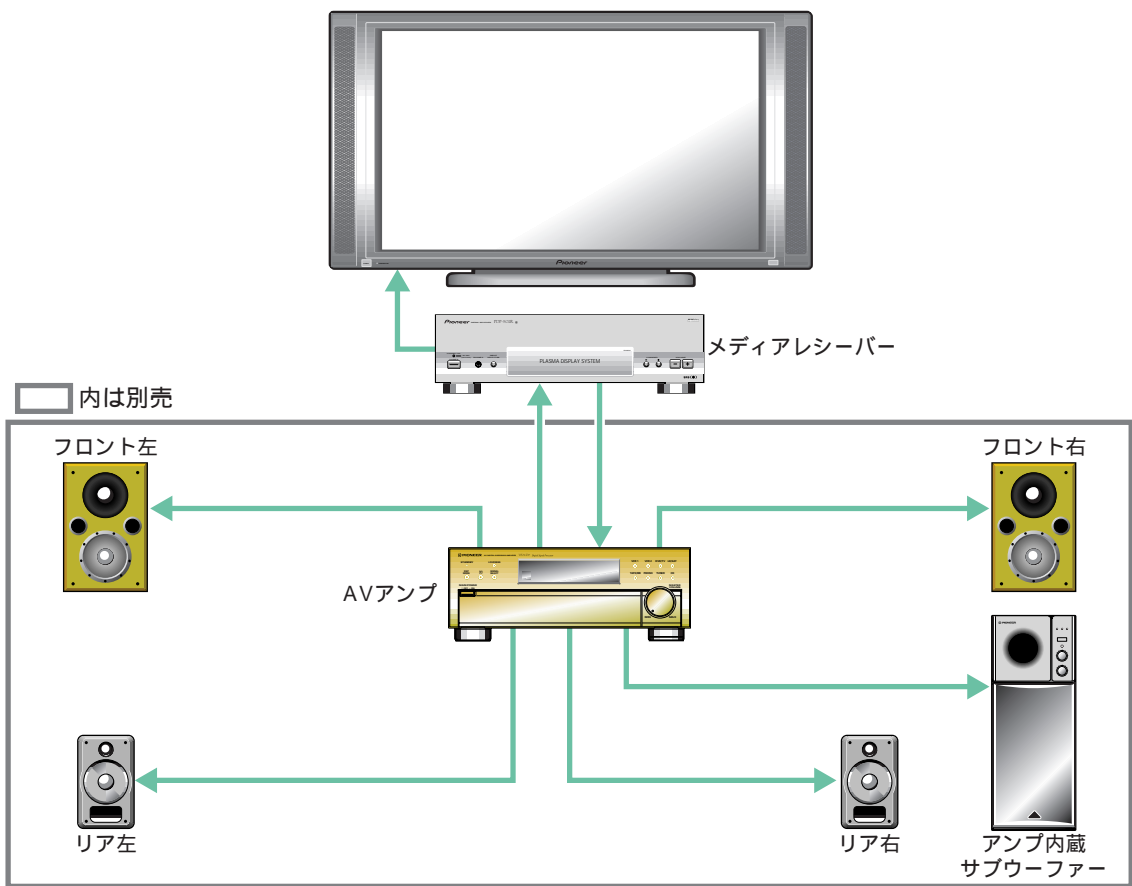
本機はホームシアターへの発展が可能です。メディアレシーバーのリアパネルにはホームシアターに必要な入出力端子が用意されています。

ホームシアターにする方法には、

1. 下図の例のように、本機のスピーカーをセンタースピーカーに使い、別売のAVアンプと複数のスピーカーを使う方法

2. 別売のサブウーファーを使った簡易的な方法（62ページ）

などがあります。

1の方法では、次のページに説明するホームシアターの接続を行ってください。

ホームシアターに関するご相談は、パイオニアお客様相談センターにお問い合わせください。

ホームシアターの接続

AV ステレオアンプとつなぐ

AV ステレオアンプとつないで「デジタルホームシアター」のコンポネントディスプレイとして使います。

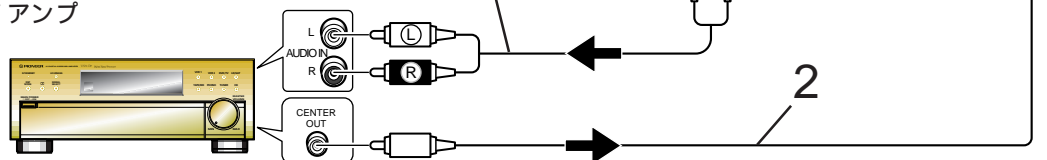
1 メディアレシーバーの音を AV ステレオアンプを使って聞くには

AVステレオアンプの「オーディオ入力」端子とメディアレシーバーの「音声出力」端子をステレオオーディオコードでつなぐ。

2 ディスプレイのスピーカーをホームシアターのセンタースピーカーに使うには

AVステレオアンプの「センター音声出力」端子とメディアレシーバーの「外部音声入力・左（モノ）」端子をオーディオコードでつなぐ。

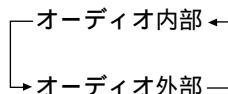
「左」の接続だけでディスプレイの左右のスピーカーから音が出ます（音声はモノラルです）。

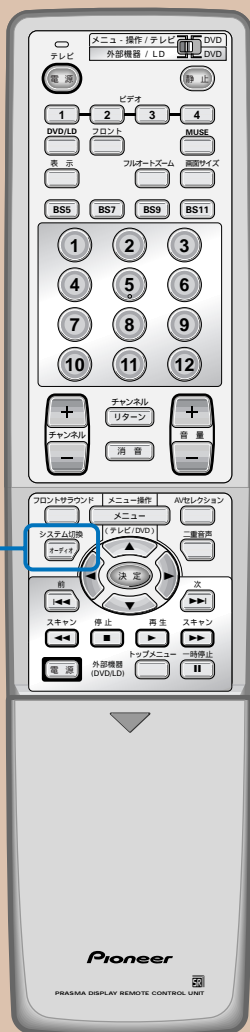
ご注意

AV ステレオアンプの「センター音声出力」端子が 1 つでない場合は、お使いの AV ステレオアンプの取扱説明書をよくお読みになってお使いください。

AV ステレオアンプとつないで音を出すには

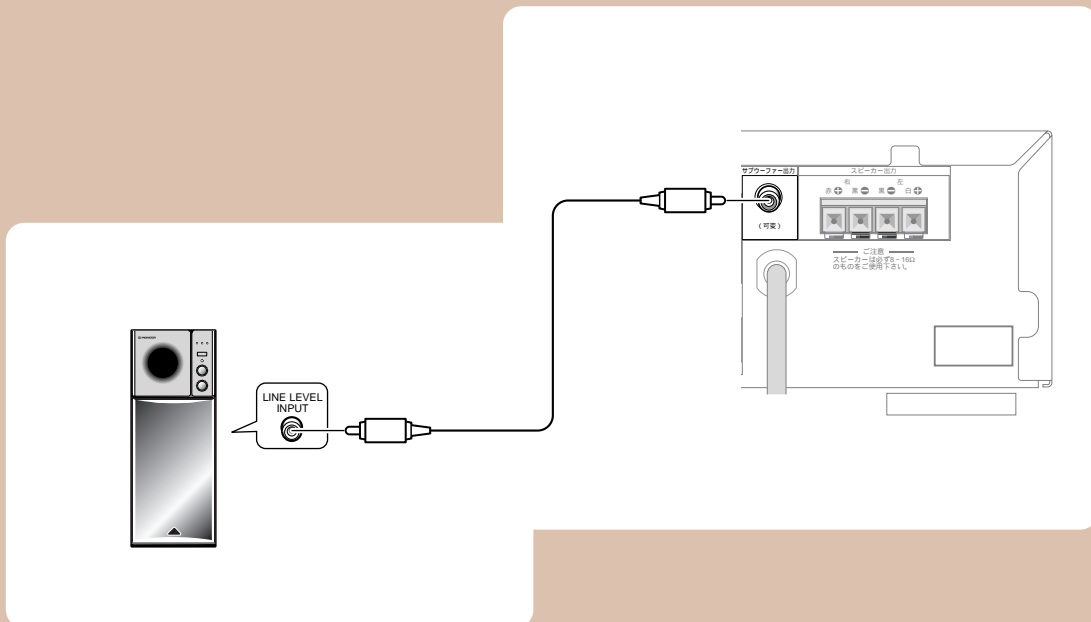
オーディオシステムを外部に切り換える

オーディオシステム切換
外部に AV ステレオアンプなどをつないだ時に、オーディオシステムを内部（メディアレシーバー）と外部（AV ステレオアンプなど）に切り換えるときに押します。

オーディオシステム切換ボタンを押すたびに、次のように切り換わります。

オーディオ内部 ⇄ **オーディオ外部**

メディアレシーバーのアンプを使うときは、オーディオ内部にします。
メディアレシーバーのアンプを使わないときは、オーディオ外部にします。

外付けのアンプの電源を切ったときは、オーディオシステム切換を「オーディオ内部」にしてください。

簡易的にホームシアターを楽しむ

メディアレシーバーにアンプ内蔵のサブウーファーを接続すると､簡易的なホームシアターを楽しむことができます。
この接続で簡易的にホームシアターを楽しむ場合、オーディオシステム切換をする必要はありません。

音量ボタンで音量を調整する

本機のスピーカーと、接続したアンプ内蔵サブウーファーの音量が調整されます

メディアレシーバーのフロントパネルにある音量ボタンでも操作できます。

お使いのアンプ内蔵サブウーファーの取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思っても故障でない場合があります。画面に警告の表示が出ているか確認してください。表示されていたら、66ページを参照して状態をチエックしてください。なにも表示されないときは、次の表からあてはまる症状をチェックしてください。また本機以外の原因も考えられますので、ご使用のビデオ機器なども合わせてお調べください。チェックしても直らない場合は、お買い上げの販売店またはお近くのサービスステーションにご連絡ください。

一般的な症状について

症　状	原　因　や　対　策
・電源が入らない	・電源プラグが外れていませんか？ ・電源ボタンは押してありますか？（9ページ） ・システムがきちんと接続されていますか？ システムケーブルが接続されていない時や断線している場合、メディアレシーバーとディスプレイの電源が切れインジケーターが黄色に点滅します。画面に警告の表示が出ていないか確認してください。（別冊設置マニュアル14ページ）
・操作できない	・落雷、静電気など外部からの影響により正常に動作しない場合があります。このような場合はディスプレイ、およびメディアレシーバーの主電源を入／切するか、電源プラグをコンセントから抜いて1～2分後に再度差し込んでから操作してください。
・テレビ放送が映らない	・アンテナ線は、正しく接続してありますか？（別冊設置マニュアル18ページ） ・アンテナ線が断線、またはショートしていませんか？ ・アンテナの向き、他機器との接続は正しいですか？ ・チャンネルを設定してありますか？（42ページ）
・画面に「アンテナの接続、設定を確認してください」と表示が出た	・お知らせメッセージ（66ページ）をご覧ください。
・音が出ない	・音声ミュートがオン（音量表示が赤）になっていませんか？ 消音ボタンを押して音声ミュートをオフにしてください。（17ページ） ・オーディオシステム切換が外部になっていませんか？ オーディオ内部に切り換えてください。（61ページ）
・リモコンで操作できない	・電池の極性（＋、－）の向きは正しいですか？（8ページ） ・電池は消耗していませんか？（新しい電池と交換してください。） ・コントロール入力端子にプラグが差し込まれていませんか？ プラグが差し込まれていると、リモコンの信号を受け付けなくなるのでコントロールコードの接続を確認してください。（別冊設置マニュアル36ページ）
・画面が欠ける	・画面サイズは合っていますか？ 他の画面サイズに切り換えてください。（50～52ページ）
・色がおかしい、画面が薄い、画面が暗いまたは濃い、色がずれている	・画質を調整してください。（28ページ） ・部屋が明るすぎませんか？ 明るすぎる部屋では、画面が暗く見えることがあります。（32ページ）
・電源がひとりでに切れた	・本機の内部温度が高くなっている。（通風口がふさがっている。） 通風口の障害物を取り除いてください。（14ページ） ・オートパワーオフ機能やスリープ機能がオンになっていませんか？（54～55ページ）
・映像が出ない	・入力切り換えは正しいですか？（24ページ） ・他機器との接続は正しいですか？（別冊設置マニュアル26～30ページ） ・画質の調整は正しいですか？（28ページ） ・本機の対応外の信号が入力されていませんか？（25ページ） ・映像ミュートがオンになっていませんか？（33ページ）

ＢＳ 放送に関する症状について

症　状	原　因　や　対　策
・選択できない BS チャンネルがある	・BS 録画設定が「オン」になっていませんか？ BS 録画設定を「オフ」にしてください。（56 ～ 57 ページ）
・雪が降るような画面（スノーノイズ）が出る	・屋外アンテナのケーブルが、切れたり外れたりしていませんか？ ・アンテナの向きが変わっていませんか？
・BSアンテナを設置したが、放送が映らない	・アンテナ電源を正しく設定してありますか？（別冊 20 ～ 21 ページ） ・アンテナの接続は正しいですか？ ・アンテナの角度や方向は正しいですか？ ・スクランブルされている放送はデコーダの接続が必要です。 ・デコーダの設定は正しいですか？（別冊 23 ～ 24 ページ） ・有料放送を見る場合、放送会社との受信契約が必要です。 ・放送衛星と太陽の間に月が入る「月食」や地球が入る「地球食」になると、放送衛星の太陽電池に光が当たらず放送が一時中断します。
・一般のテレビ放送に比べ放送の画質が悪い	・雨や雪の影響で電波が減衰し画像にノイズが出たり、映りづらくなります。また、雨が降っていなくても放送衛星のある方向に雨雲があると影響を受けます。
・音が出てこない	・デコーダは接続してありますか？ ・独立音声放送（セント・ギガ）は、WOWOW とは別に受信契約が必要です。 ・音声選択が「独立」になっていませんか？ 独立音声放送がない場合は「テレビ」に切換えてください。（35 ページ）

故障と誤解しやすい症状について

症　状	原　因　や　対　策
・画面が 2 重、3 重になる（ゴースト現象）	・放送局からの直接電波に近くの山や高層建築などからの反射波が影響している場合があります。また、放送局が近すぎる場合アンテナから入る電波と本機に直接飛び込む電波が影響している場合があります。
・キャビネットから時々「ピシッ」と音がする	・周囲の温度変化によって、キャビネットがわずかに膨張・収縮するため、きしみ音が出ることがあります。これは故障ではありません。
・映像の明るい部分がつぶれて見える	・映像入力信号のレベルが高すぎる場合、明るい部分がつぶれぎみに見える場合があります。 コントラストの調整値を下げて確認してください。（28 ページ）
・選択できないVHF、UHFまたはCATV チャンネルがある	・チャンネル設定は行いましたか？（42 ページ）

故障と誤解しやすい症状について

症　状	原　因　や　対　策
・画面に斑点が出る、ノイズが出る *注	・ヘアドライヤー、電気掃除機、電気ドリルなどのモーター機器、自動車、オートバイなどの点火装置、サーモスタットなどの点滅機器、ネオンサイン、排そう電線などの放電による妨害電波の影響が考えられます。
・画面に縞模様が出る	・テレビ局、FM 局、アマチュア無線、市民無線（簡易無線）、など、また近くのパソコン、テレビ、ビデオ、オーディオ機器などからの電波混入が考えられます。
・操作できない	・落雷、静電気など外部からの影響により正常に動作しない場合があります。このような場合はディスプレイ、およびメディアレシーバーの主電源を入／切するか、電源プラグをコンセントから抜いて1～2分後に再度差し込んでから操作してください。
・本体内部より音がする	・ファンの回転音です。故障ではありませんが、通気孔にホコリなどがたまっていないか確認をしてください。(14 ページ)

* 注：
本機は高精度技術によって製造されておりますが、極めてわずかに画素欠け、誤発光等が生じる事がありますので、ご了承ください。

本機のディスプレイ部とメディアレシーバーは回路の保護のために、周囲温度に応じて自動的にファンの回転数を変えて内部を冷やします。

その他の注意点

- 本機を使用中に電源が自動的に切れた場合、次のようなことが考えられます。
  ① 通気孔がふさがれている、あるいは部品が異常発熱している等で、本機の内部温度が異常に上昇しているとき。(14 ページ)
  ② オートパワーオフ機能、スリープ機能がオンになっている。(54、55 ページ)
  ③ 上記以外の場合に電源が自動的に切れたときには故障が考えられます。
  電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理をご依頼ください。
- 本機のプラズマディスプレイパネルは大変明るく、近い距離で長い時間画面を見ていると目が疲れます。
  適度な距離（3～6m）をおいて見ることをお奨めします。

お知らせメッセージについて

本機の動作や、アンテナの接続に不具合があるとき、**テレビ画面の上**にお知らせメッセージが表示されます。内容をご確認の上、状態をチェックしてください。

こういう表示が出たら	こうしてください
ビデオ 2 は MUSE サブ入力に設定されています。	・ MUSE サブ入力の設定をオフにします。（別冊 31 ～ 32 ページ）
接続されている入力信号には対応していません。	・ いくつかの機能は入力信号（480p、MUSEなど）によっては使用できません。 入力信号がその機能に対応しているかは各機能を説明しているページを確認してください。 ・ 動きモード（30 ページ） ・ フィルムモード（31 ページ） ・ フルオートズーム（50 ページ）
アンテナの接続、設定を確認してください。	・ アンテナの接続を確認します。 ・ アンテナの向きを調整します。 ・ BS アンテナ電源の設定を確認してください。（別冊 20 ページ）
BS デコーダの接続を確認してください。	・ BSデコーダの接続や設定を確認します。（別冊23～24ページ）
内部温度が上昇しています。 電源をオフにしてください。	・ 主電源を切ってください。（9 ページ） ・ 室内の温度が 40℃以上になっていませんか？ ・ ディスプレイの通風孔が塞がれていたら直してください。（14 ページ）
システムケーブルの接続を確認してください。	・ 主電源を切り（9ページ）、電源コードを抜いてください。 ・ システムケーブルの接続を確認してください。（別冊 14 ページ） ・ それでも表示が出る場合は、修理を依頼してください。
BS アンテナがショートしていますので、BS アンテナ電源の設定をオフにしました。	・ BSアンテナのケーブルが正しく接続されているか確認します。（別冊 19 ページ）
BS 録画設定が、されています。	・ BS 録画設定をオフにします。（56 ～ 57 ページ）
BS 録画設定オン時に初期設定はできません。	・ BS録画設定を「オフ」にしてください。（56～57ページ）
BS 放送選択時に自動設定はできません。	・ リモコンの 1 ～ 12 のどれかのボタンを押してからチャンネル自動設定を押してください。（42 ページ）

保証とアフターサービスについて

保証書について（別途添付してあります）

ご購入時に、保証書にお買い上げの店の捺印、住所、購入年月日が記入されていることをお確かめの上、大切に保管してください。
保証書に所定事項が記入されていない場合や紛失したとき、あるいは誤った使用法で使用し故障した場合は、保証期間中であっても有料となりますのでご注意ください。
本機の保証期間は、お買い上げ後１年間となっています（ただし、プラズマディスプレイパネルのみは２年間です）。

修理を依頼されるときは

「故障かな？と思ったら」（63ページ）を見て、もう一度接続や操作に間違いはないか確認してください。
また、異常のあるときは使用を中止してください。必ず電源コードを抜いてから、販売店、アフターサービス連絡先、またはお近くのサービスステーションにご連絡ください（付属の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご覧ください）。

連絡していただきたい内容

1. 型名、型番
   「プラズマディスプレイシステム　PDP-502HD」
   ・プラズマディスプレイ　PDP-502P
   ・メディアレシーバー　PDP-502R
   ・スピーカー　PDP-502S-LR
2. 故障の内容「映像が出ない」など
3. お買い上げ年月日「00年0月0日」
4. お名前、住所、連絡先電話番号
5. ご希望訪問日
6. ご自宅までの道順と目標物（建物、公園など）

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞などにはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

保証期間中は

修理を依頼するときは、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社保証規定によって、修理いたします。

保証期間が過ぎているときは

販売店、アフターサービス連絡先、またはお近くのサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

部品の保有期間は

プラズマディスプレイの補修用性能部品の最低保有年数は、製造打ち切り後８年です。
この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談は、パイオニアお客様相談センターまたは最寄りのパイオニアインフォメーションセンター（I・C）をご利用ください。所在地、電話番号は、付属の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご覧ください。

お客様ご相談窓口(全国共通フリーフォン)

お客様相談センター　フリーフォン 0070-800-818122

<ご注意>
● PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。予めご了承ください。
● 修理に関しては別添の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

（1999年6月現在）

その他

愛情点検

家電品
愛情点検明るいくらし

仕　様

プラズマディスプレイ PDP-502P

発光パネル ... 50インチプラズマディスプレイパネル
アスペクト比 16:9
画素数 .... 1280(水平)×768(垂直)
電源 .... AC 100 V、50/60 Hz
消費電力 .... 495 W(メディアレシーバー含む)
スタンバイ消費電力
.... 1W(メディアレシーバー含む)
年間消費電力 .... 817.2 W・h/年
外形寸法
.... 1218(幅)×714(高さ)×98(奥行)mm
(ディスプレイ部)
.... 1218(幅)×765(高さ)×400(奥行)mm
(ディスプレイスタンド含む)
質量 .... 42 kg
.... 46 kg(ディスプレイスタンド含む)

メディアレシーバー PDP-502R

内蔵チューナー
.... VHF/UHF、BS、CATV、MUSEデコーダ、
M-Nコンバーター
音声出力 .... 12 W + 12W(EIAJ/8 Ω)、
外部音声入出力端子、サブウーファー端子
アンテナ入力 ..... VHF/UHF/CATV1系統、BS1系統
ビデオ入力(フロント入力端子を含む)
.... S映像:5系統、映像:5系統、音声:5系統
MUSE入力 1系統
コンポーネント映像入力 2系統
映像出力 .... S映像・映像・音声:1系統
コンポーネント映像出力 1系統
デジタル放送入力(映像、音声) 1系統
BS検波出力 2系統
ビットストリーム出力 1系統
ヘッドホン出力 1系統
外部音声入力 1系統
外部音声出力 1系統
サブウーファー出力 1系統
SR入出力 1系統

外形寸法
.... 420(幅)×128(高さ)×378.5(奥行)mm
質量 .... 8 kg

スピーカー PDP-502S-LR

方式 3ウェイ密閉方式
インピーダンス .... 8 Ω
最大入力 .... 12 W
外形寸法 .... 74(幅)×714(高さ)×99.5(奥行)mm
質量 2.7 kg/1台

付属品

プラズマディスプレイ　PDP-502P

電源コード 1
変換プラグ 1
転倒防止用のボルト 2
ワイピングクロス 1
スピードクランプ 2
ビーズバンド 2
保証書 1

メディアレシーバー　PDP-502R

リモコン 1
システムケーブル 1
スピーカーケーブル 1
変換プラグ 1
単3乾電池 2
取扱説明書 2
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1
愛用者カード 1
ケーブルバインダー 5

スピーカー　PDP-502S-LR

スピーカー取付金具 4
スピーカー取付ネジ類 .... 4 × 2
取付工具 1

●上記の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

3-1 方式
ハイビジョン放送の音声モードの１つで、A モード４チャンネルステレオ方式を指します。音声チャンネルを、前はＬとＲ、センターの３つのスピーカー、後ろはひとつのスピーカーの、合計４つのスピーカーを使い臨場感豊かな音声が楽しめます。

BS 放送
放送用の静止衛星を中継局に使い、放送電波（SHF帯）を家庭に送ります。BS 放送は普通の放送よりも障害物による電波障害が極めて少なく、高品質の画像や音声が楽しめます。Broadcasting Sateliteの略です。

BS 放送の音声
BS放送の音声にはAモードとBモードがあります。Aモードの音質はFM放送と同等です。テレビ音声か、独立音声を選べます。Bモードの音質はCDと同等です。独立音声は選べません。

MUSE 方式
ＭＵＳＥ方式はハイビジョンの信号を放送衛星の１チャンネル分の帯域幅（27MHz）で伝送するための帯域圧縮方式です。

MUSE-NTSC コンバータ
ハイビジョン放送を普通の放送方式（NTSC）に変換するための機器です。ハイビジョン放送を普通のビデオに録画したい場合に必要です。

S 端子
NTSC 方式の VIDEO 信号を輝度信号と色信号に分け、別々に伝送する端子のことです。VIDEO信号での入出力よりも再現性が優れています。

S1 映像信号
S 端子へ判別信号を重ねることにより、画面サイズの情報を記録するシステムの名称です。

S2 映像信号
S1 映像信号に、縦横比 4:3 の映像で上下に黒い帯があるワイド映像を自動的に判別する信号を重ねたものです。

WOWOW
WOWOW はBS5 チャンネルです。有料放送のため、BS デコーダがないと視聴できません。

コンポーネント入力
入力信号としての、Y、C_B、C_Rの総称です。C_Bは（B-Y）信号、C_Rは（R-Y）信号です。映像信号は、最終的に画面に表示するためにいくつかの信号処理回路を経ています。その途中で信号を受け渡しする端子があります。それがVIDEO（コンポジット）入力／出力端子、S 入力／出力端子、コンポーネント（Y、C_B、C_R）入力／出力端子です。
映像の品質を損なわずに信号を受け渡しする端子の順番は、コンポーネント→ S → VIDEO 端子の順です。

SRS（サウンドリトリーバルシステム）
人間の聴覚にあわせた音場補正を行うことで、２つのスピーカーより再生されるステレオ音声を、より自然で立体的な音に再現する技術の名称です。

サラウンド
劇場やコンサートホールでは私たちの耳に届く音は直接音や反射音が混ざり合っています。サラウンドはこれを応用して、音声信号を電気的に処理し、あたかもその場にいるような音場をつくります。

スクランブル
有料放送では映像や音声の信号を暗号化（スクランブル）し、普通では見ることができないようにしています。見るためには専用のデコーダ（暗号化された信号をもとどおりにする装置）が必要です。

セント・ギガ（St.GIGA）
St.GIGA はBS5 チャンネルでＡモードの独立音声を選ぶことで聞くことができます。有料放送のため、BS デコーダがないと聞くことができません。（「BS 放送の音声について」（21 ページ）を参照）

デコーダ
処理された信号をもとに戻す装置のこと。有料放送では映像や音声の信号を暗号化（スクランブル）しています。専用のデコーダで暗号化された信号をもとどおりにして視聴します。

ハイビジョン放送
ハイビジョンは高精細度テレビ（High-Definition TV）とも呼ばれ、現在のテレビ方式に変わる次世代テレビ方式です。ハイビジョン放送を見る場合はハイビジョン放送の方式であるMUSE方式の信号を復調するMUSEデコーダが必要ですが、本機ではそれを内蔵しています。

ハイビジョン放送の音声
ハイビジョン放送の音声モードはAモード4チャンネルステレオ方式と、Bモード2チャンネル方式があります。

三次元Y/C分離回路
映像信号を構成するY信号とC信号を別々に処理し、より鮮明な画像を実現する回路です。

インターレース（飛び越し走査）
映像の1画面を半分ずつ2回に分けて描きます。最初に奇数番目の画面（フィールド）を描き目の残像を利用して、次に偶数番目の画面を描いて1画面（フレーム）を表示します。従来のテレビの操作方式として採用されています。本機の取扱説明書では解像度の数字の後ろに“i”を付けて（480iまたは1080i等）表記してあります。

プログレッシブ（順次走査）
映像の1画面を2回に分けずに1画面ずつ描きます。特に静止画の文字やグラフィックス、横線などの多い画像で、チラツキを抑えた美しい画像がご覧になれます。本機の取扱説明書では、解像度の数字の後ろに“p”を付けて（480p等）表記してあります。

さくいん

A

B

C

E

L

M

S

「操」は操作マニュアル、「設」は設置マニュアルの意味です。数字はページ数です。

その他

このたびはパイオニア製品をお買い求めいただきありがとうございました。

- お使いになる前に、正しく安全にお使いいただくため、「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- 本機の機能を十分に発揮させてお使いいただくために、この取扱説明書を最後までお読みください。
- 本機の取扱説明書は「設置マニュアル」と「操作マニュアル」で構成しています。
- お読みになった後は、「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒にして大切に保管してください。

●省エネルギー設計製品

本機は電源オフ時（スタンバイ時）の消費電力を抑えた設計となっています。スタンバイ時の消費電力値は68ページをご覧ください。

高調波ガイドライン適合品

お客様メモ

- 覚えのため記入されますと便利です。

ご購入店名	住所 電話番号	お近くの ご相談窓口	
ご購入年月日	年　月　日		

この取扱説明書は再生紙を使用しています。

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<99D00SF0Y01>　<ARA1311-A>